

ニチハ

アスファルトシングル

アールマ

ASPHALT SHINGLE ROOF

住まいが変わる。屋根から変える。

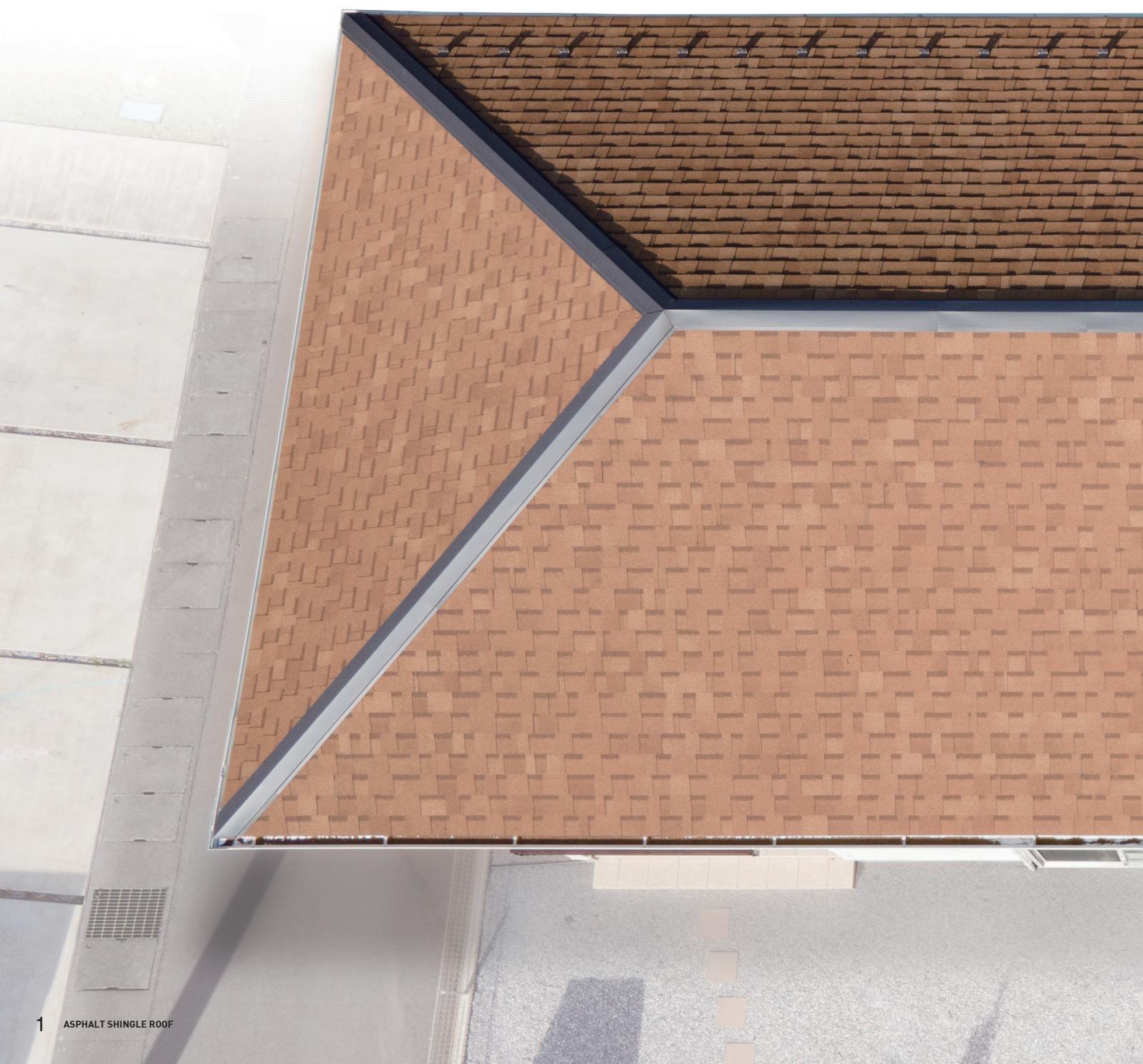


住まいが変わる。

屋根から変える。

人々の安心の暮らしを支えたい。ライフスタイルの多様化に応えたい。
そんな思いから、ニチハは米国生まれの歴史のあるアスファルトシングルを
これからの住まいにお届けします。

ニチハのアスファルトシングル「アルマ」はラテン語で「鎧」を意味する
その名の通り、優れた耐久性と個性が光る洗練されたデザインで
日本の住まいを屋根から変えていきます。



CONTENTS

アスファルトシングル「アルマ」6つの特長 …… 3	製品保証(割れ・剥離)10年対応 …… 10
特長①[軽量性] …… 5	アルマの使用可能範囲の変更について …… 11
特長②[耐候性] …… 6	商品情報 …… 13
特長③[耐風圧性・耐水性] …… 7	施工例 …… 15
特長④[耐衝撃性] …… 8	設計施工資料 …… 18
特長⑤[施工性] …… 8	保証について・メンテナンススケジュール …… 45
特長⑥[意匠性] …… 9	アルマ取り扱い営業所一覧 …… 46

製品保証

割れ・剥離

10年
対応

製品保証(割れ・剥離)10年対応

ニチハのアスファルトシングル「アルマ」は新築時において製品本体の割れ・剥離に対し10年間保証いたします。

※保証には諸条件がございます。

保証内容の詳細につきましてはP45をご参照ください。

アスファルト シングル

アルマ

ASPHALT SHINGLE ROOF

6つの特長

アスファルトシングルの長い歴史に裏付けされた多彩な特長を備えた「アルマ」。
住まう人の暮らしをしっかりと守り、笑顔あふれる毎日をお約束します。



特長1

【軽量性】軽量だから、地震時の揺れを軽減。

P5



特長2

【耐候性】セラミックコーティングで、美しい色合いを維持。

P6



特長3

【耐風圧性・耐水性】激しい雨風にも負けない性能を発揮。

P7



特長4

【耐衝撃性】柔軟性が高く、衝撃に強い。

P8



特長5

【施工性】裁断しやすく、釘打ちもスピーディに。

P8



特長6

【意匠性】和・洋・モダン住宅にも調和するデザイン。

P9

■ アルマ施工地域のご案内

【ニチハ多雪地域基準図】

この地図は建築基準法施行令第86条3項に規定される「垂直積雪量」をもとにニチハ独自に作成したものです。

アルマは施工地域が限られております。

- 一般地域 全域で施工できます。
- 積雪A地域 積雪地域専用施工仕様適用区域です。
- 積雪B地域 施工できません。

垂直積雪量がおおよそ120cm以下の地域でご使用ください。
詳しくは最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。



■ 環境にも優しい

アルマは他の屋根材に比べ、原材料取得から廃棄までの過程におけるCO₂排出量が少なく(LCA※)、環境にも優しい屋根材です。

※LCA(Life Cycle Assessment)：製品やサービスに対する「環境影響評価」の手法のこと。製造～廃棄(再利用)までの各段階における「環境負荷を見える化」するための指標として用いられています。

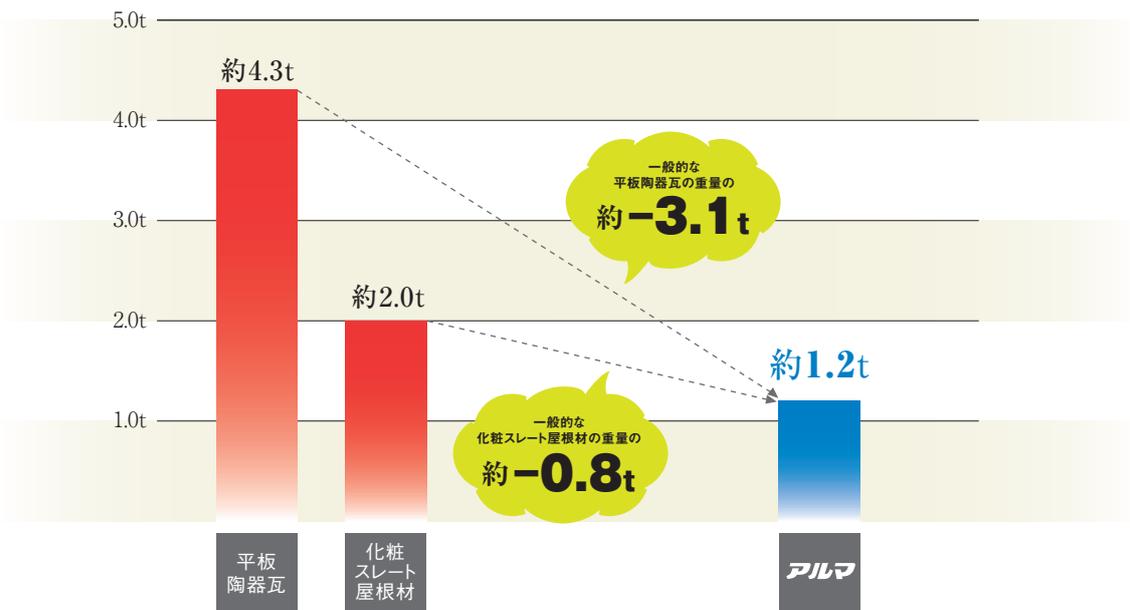




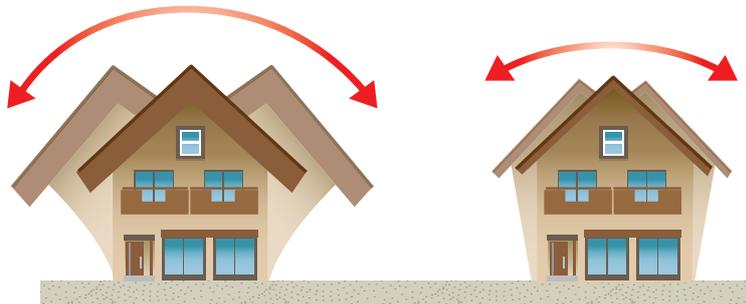
軽量だから、地震時の揺れを軽減。

アルマは重量が一般的な平板陶器瓦の約30%、化粧スレート屋根材の約60%と非常に軽い屋根材です。同じ形の建物でも、建物の重量が軽いほど地震時の建物にかかる負荷は小さくなります。

■ 屋根材重量比較 ※屋根面積100m²で計算(自社調べ)



屋根を軽くすることで、建物全体の重心が低くなり、揺れ幅は小さくなります。軽量屋根は耐震設計における必要壁量を減らすことが可能です。



軽量性

耐候性

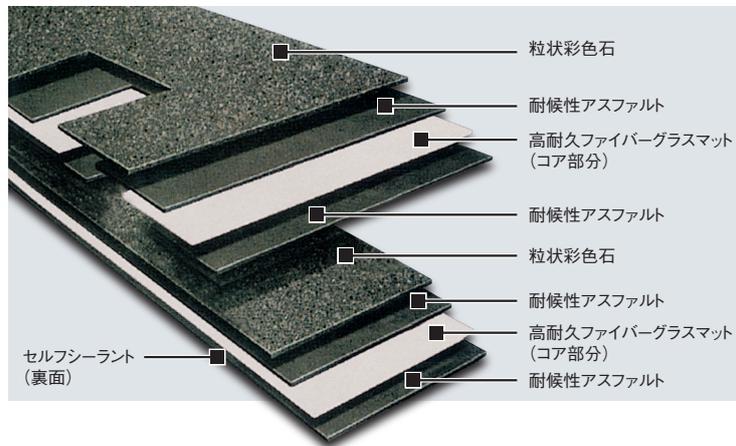
耐風圧性・耐水性

耐衝撃性・施工性

意匠性

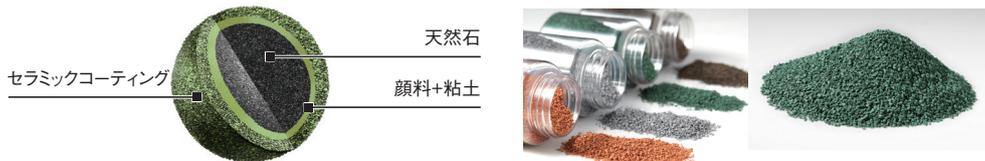
セラミックコーティングで、美しい色合いを維持。

アルマは原材料の天然石に顔料・粘土および水ガラスを使用したセラミックコーティングを施すことで、自然な色合いを維持します。



■ グラニュール(粒状天然石)構造

グラニュールは、天然石の上に顔料・粘土および水ガラスを使用したセラミックコーティングを施した耐候性の高い素材です。



アルマは外部試験機関※1による耐候性試験※2を実施しています。

■ 超促進耐候性試験※2 1000時間実施前後比較



目視による本体の外観確認で異常(塗膜剥離による白化現象)なし。

SA205 キヤメルII

※当該試験結果は、アルマが著しく変色・褪色しないことを保証するものではありません。
※品番・色名は試験当時のものです。現行品番も耐候性について差違はございません。

※1 JFEテクノリサーチ株式会社 ※2 アイスーパー UV試験(当社試験条件による)

軽量性

耐候性

耐風圧性・耐水性

耐衝撃性・施工性

意匠性

激しい雨風にも負けない性能を発揮。

■ 耐風圧性

アルマは高い耐風圧性能を有しており、基準風速38m/s以上の強風地域でも使用できます。

※強風地域での使用には専用の施工方法がございます。詳しくはP25をご参照ください。



高い接着強度を誇るセルフシーラント

アルマは「スーパーシーラント」技術によって製品本体(裏面)にセルフシーラント(自着材)を1本通して施しています。屋根材どうしがしっかりと接着するため強風時でも浮きや剥がれに強く、安心です。



■ 耐水性

アルマは原材料であるアスファルトの高い耐水性とセルフシーラントによって、台風などの荒天による激しい雨風から住まいを守ります。

特長④
FEATURES

耐衝撃性

特長⑤
FEATURES

施工性

アスファルトシングル
アルマ
ASPHALT SHINGLE ROOF



柔軟性が高く、衝撃に強い。

■ 耐衝撃性

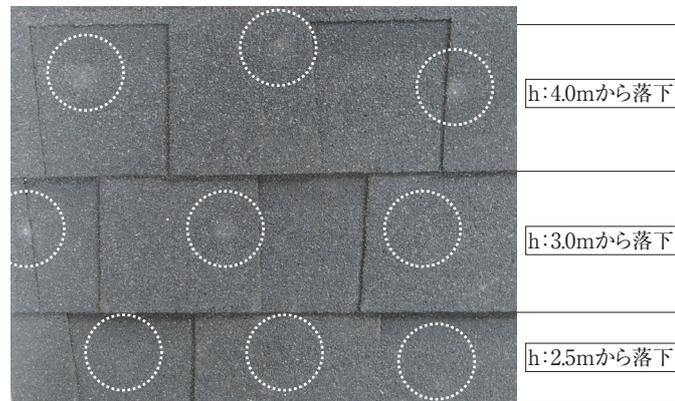
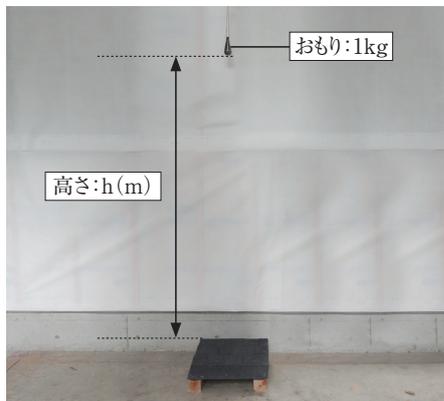
原材料がアスファルトとグラスファイバーであるアルマは柔軟性が高く、耐衝撃性試験において重さ1kgのおもりによる衝撃にも耐えることが確認されています。グラスファイバーは自動車や宇宙服の素材にも採用された実績がある素材です。

■ 試験の様子

1kgのおもりを2.5m、3.0m、4.0mの高さから落下。

■ 試験結果(自社試験)

目視による本体の外観確認で異常(亀裂、欠損等)なし。



軽量性

耐候性

耐風圧性・耐水性

耐衝撃性・施工性

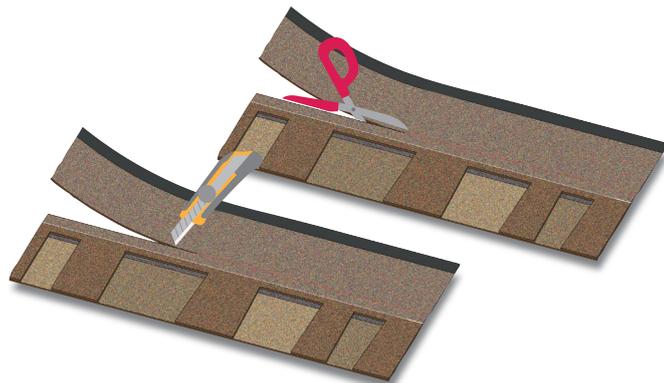
意匠性

裁断しやすく、釘打ちもスピーディに。

■ 施工性

アルマは大型の特殊工具を必要とせず金バサミやカッターナイフで裁断できるため、屋根上での加工もしやすく、施工性に優れています。また、留め付けは釘打ち機※によるスピーディな施工が可能なので工期の短縮も期待できます。

※釘打ち機の対応機種について詳しくは最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。



特長⑥
FEATURES

意匠性



和・洋・モダン住宅にも調和するデザイン。

2層構造が織りなす凹凸と天然石のグラデーションが美しいアルマは、柔らかく素材感のあるデザインで、洋風スタイルはもちろん、和風スタイルや様式にとらわれないコンテンポラリースタイルにも調和します。5色のカラーバリエーションで、建物全体のコーディネートが楽しめます。

軽量性

耐候性

耐風圧性・耐水性

耐衝撃性・施工性

意匠性

	<p>■ コンテンポラリースタイル</p> <p>和風と洋風、伝統とモダン、デザインと機能…様々な要素を組み合わせた、オーソドックスなスタイル。グレーやブラウンなど飽きのこないカラーがおすすめです。</p>	<p>SA302 グレー AR</p>	<p>SA303 ブラウンAR</p>
	<p>■ 和風スタイル</p> <p>軒が深く、下屋根など屋根の存在感が特に感じられるスタイル。近年は和モダンスタイルも人気で、素材感の中にもすっきりとした印象のアルマも抵抗なくお使いいただけます。</p>	<p>SA302 グレー AR</p>	<p>SA301 ブラックAR</p>
	<p>■ モダンスタイル</p> <p>モノトーンを基調にシンプルで直線的なフォルムが特長の住宅スタイル。きりっとした印象のブラックや、ナチュラル感をプラスするならブラウンもおすすめです。</p>	<p>SA301 ブラックAR</p>	<p>SA303 ブラウンAR</p>
	<p>■ 洋風スタイル</p> <p>石柄や木目柄を用いた明るい印象の住宅。日本でも、町並に馴染みやすいナチュラルなスタイルが人気です。</p>	<p>SA304 グリーンAR</p>	<p>SA305 キャメルAR</p>

リフォームにも最適

アルマは新築だけでなくリフォーム(重ね葺き、葺き替え)にも対応しています。重ね葺きは既存の屋根を剥がさず廃材も発生しないので、工期と費用の負担が軽減できます。瓦などからの葺き替えは屋根重量の大幅な軽減により、建物自体の耐震性向上が期待できます。機能性、施工性、デザイン性に優れたアルマはリフォームにも最適です。



SA305(葺き替え)

製品保証

割れ・剥離

10年 対応

製品保証（割れ・剥離） 10年対応

お客様に末永く安心して暮らしていただくために
ニチハのアスファルトシングル「アルマ」は新築時において
製品本体の割れ・剥離に対し10年間保証いたします。

保証内容	
次の不具合現象のないこと	保証期間
屋根材本体の割れ、剥離 ※割れ：下葺材まで達する貫通亀裂の状態（表層部の軽微な亀裂を除く） ※剥離：下地が露出した剥がれまたはめくり上がり	10年
※施工起因による不具合は含まれません。また、保証内容に抵触するか否かは弊社が判断するものといたします。	

※保証には諸条件がございます。保証内容の詳細につきましてはP45をご参照ください。



SA302

アルマの使用可能範囲の変更について

準防火地域の3階建て物件にもアルマを使用

平成30年3月22日に改正された告示(建設省告示第1399号「耐火構造の構造方法を定める件」、第1358号「準耐火構造の構造方法を定める件」)により屋根の構造方法が改正されました。

今回の改正で、**耐火構造**においては、**防火被覆の取合い等の部分の裏面に当て木を設け、木下地で、かつ屋内側の部分または直下の天井に防火被覆※を設けること**で従来から飛び火性能の認定をもつアルマが木造耐火建築物に適用できるようになりました。

また、**準耐火構造**においては、**防火被覆の取合い等の部分の裏面に当て木等を設け、建築物内部への炎の侵入を有効に防止することができる構造としたもので、野地板と屋内側の部分または直下の天井に対する防火被覆材の組み合わせが追加され、告示仕様でのアルマの下地の選択肢が広がりました。**

※強化せっこうボードを2枚以上張ったもので、その厚さの合計が27mm以上のもの。

■告示改正の内容(今回の改正・追加箇所:)

耐火構造 (建設省告示第1399号「耐火構造の構造方法を定める件」(平30国交告第472号))

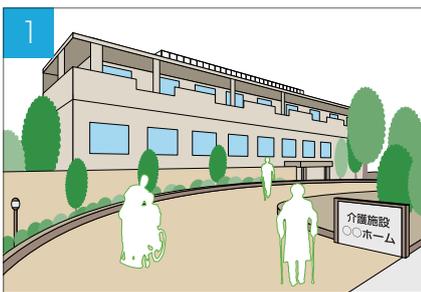
第5 令第107条第一号及び第三号に掲げる技術的基準に適合する屋根の構造方法は、次の各号のいずれかに該当する構造(第六号に定める構造方法にあっては、防火被覆の取合い等の部分を、当該取合い等の部分の裏面に当て木を設ける等当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止することができる構造とするものに限る。)とすることとする。

- 一 鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造
- 二 鉄材によって補強されたコンクリートブロック造、れんが造又は石造
- 三 鉄網コンクリート若しくは鉄網モルタルでふいたもの又は鉄網コンクリート、鉄網モルタル、鉄材で補強されたガラスブロック若しくは網入ガラスで造られたもの
- 四 鉄筋コンクリート製パネルで厚さ4cm以上のもの
- 五 軽量気泡コンクリートパネル
- 六 下地を木材又は鉄材で造り、かつ、その屋内側の部分又は直下の天井に防火被覆(強化せっこうボードを2枚以上張ったもので、その厚さの合計が27mm以上のものに限る。)が設けられたもの

アルマが木造耐火建築物に適用可能になりました。
「下地の構成」により耐火構造とすることができます。

※アルマは鉄骨下地には使用できません。高さ16m以下が対象となります。

■木造耐火建築物の例



特別養護老人ホーム(老人福祉法 第17条)・
介護老人保健施設(介護保険法 第97条)



幼稚園(学校教育法 第3条)



防火地域の専用住宅(延べ面積が100㎡以上の建築物、または3階建の建築物。建築基準法 第27条)

4 延べ面積が3000㎡超の建築物
(建築基準法 第21条)

5 準防火地域の延べ面積が、
1500㎡超の建築物(建築基準法 第62条)

6 3階建以上の学校・保育所、ケアハウスなどの
特殊建築物(建築基準法 第27条)

【ご注意】 ・弊社が取得しているセンチュリー耐火野地板の耐火構造認定の屋根葺材にはアルマは対応しておりません。
・アルマは木下地対応品です。鉄骨下地には使用できません。
・アルマは高さ16m以下でご使用ください。
・アルマを施工する際の野地板は普通合板等で厚み12mm以上です。

※1 用途・規模による規定で使用できない場合がありますので、建築基準法に準じてください。

できるようになりました。*1

(建設省告示第1358号「準耐火構造の構造方法を定める件」 H30年国土交通省告示第473号)

屋根の構造方法は、防火被覆の取合い等の部分を、当該取合い等の裏面に当て木を設ける等当該建築物の内部への炎の侵入を有効に防止することができる構造とするもの限り、次に定めるものとする。

一 ハ次に定める構造とすること。

- (1) 不燃材料で造るか、またはふいたもの
- (2) 屋内側の部分または直下の天井に次の(i)から(vii)までのいずれかに該当する防火被覆が設けられたもの
 - (i) 厚さが12mm以上の強化せっこうボード
 - (ii) 厚さが9mm以上のせっこうボードを二枚以上張ったもの
 - (iii) 厚さが12mm以上のせっこうボード(その裏側に厚さが50mm以上のロックウールまたはグラスウールを設けたものに限る)
 - (iv) 厚さが12mm以上の硬質木片セメント板
 - (v) 第一第三号ハ(2)から(6)までのいずれかに該当するもの
 - (vi) 塗厚さが20mm以上の鉄網モルタル
 - (vii) 繊維強化セメント板(けい酸カルシウム板に限る)を二枚以上張ったもので、その厚さの合計が16mm以上のもの

二 野地板に構造用合板、構造用パネル、パーティクルボード、硬質木片セメント板その他これらに類するもので厚さが9mm以上のものを使用し、かつ、その屋内側の部分または直下の天井に厚さが12mm以上の強化せっこうボードの防火被覆が設けられた構造とすること。

ホ 屋内側の部分または直下の天井に次の(1)から(3)までのいずれかに該当する防火被覆が設けられた構造とすること。

- (1) 厚さが15mm以上の強化せっこうボード又は厚さが12mm以上の強化せっこうボード(その裏側に厚さが50mm以上・かさ比重0.024以上のロックウール又はグラスウールを設けたものに限る)
- (2) せっこうボードを二枚以上張ったもので、その厚さの合計が21mm以上のもの
- (3) 厚さが12mm以上のせっこうボードの上に厚さが9mm以上のロックウール吸音板を張ったもの

■屋根の防耐火基準(木造) 最新の法令をご確認のうえ、実際の要求性能については建築主事や確認審査機関にご確認ください。

用途	地域	延面積(S)㎡ 階数	S ≤ 100	100 < S ≤ 500	500 < S ≤ 1000	1000 < S ≤ 1500	1500 < S ≤ 3000	3000 < S
			共同住宅	防火地域(法61条)	3階建以上			
1・2階建	30分準耐火構造							
準防火地域(法62条)	4階建以上							
	3階建	30分準耐火構造 *各種条件をみたさないものは耐火構造となります。						30分耐火構造
法22条区域	4階建以上							
	3階建	30分準耐火構造 *各種条件をみたさないものは耐火構造となります。						30分耐火構造
住宅	防火地域(法61条)	3階建以上						
		1・2階建	30分準耐火構造					
	準防火地域(法62条)	4階建以上						
		3階建	30分準耐火構造 準防3階建て仕様 屋根：防火被覆			30分準耐火構造		30分耐火構造
	法22条区域	4階建以上						
		3階建	不燃同等*1					
		1・2階建	不燃同等*1					

*1 「通常の火災を想定した火の粉による建築物の火災を防止するために屋根に必要な性能」もしくは「不燃材料で造るまたはふく」を示します。 *2 2階の用途が300㎡以上

- 従来から飛び火性能の認定で使用できた範囲。
- 告示仕様の防火被覆を設けることで、使用可能となる準耐火構造の範囲。
- 告示仕様の防火被覆を設けることで、使用可能となる耐火構造の範囲。

注) 国土交通省告示第203号第五第一号二にて、屋根ふき材は制限されませんが、防火地域、準防火地域、法第22条により指定区域に該当する場合等、別途屋根ふき材に必要な性能が求められる場合があります。(国土交通省住宅局建築指導課パブリックコメント 案件番号15517070101)

上記内容は、2020年3月末時点の法令に基づいております。その他用途と規模、防火区画、内装制限などがありますので、最新の建築基準法、建築基準法施行令に準じてください。

商品情報

PRODUCT INFORMATION

アスファルトシングル
アルマ

SA30□

標準価格(税抜) **900円/枚(6,300円/m²)**

保証対応
割れ・剥離
10年

地域
限定

国土交通大臣認定(飛び火認定試験合格) DR-1875-1(1)

■ カラーバリエーション



SA301 ブラックAR



SA302 グレー AR



SA303 ブラウンAR



SA304 グリーンAR



SA305 キヤメルAR

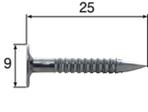
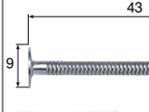
※アルマの表面粒状石に特殊コーティングした粒状石を少量混ぜることにより、防藻性能を付加いたしました。防藻性能は永久的なものではなく、全ての藻に対して効果を発揮するものではありません。またその効果を保証するものではありません。

※標準屋根勾配は3.5寸以上、27.5寸(約70度)以下としてください。
また、2.5寸以上、3.5寸未満の場合は緩勾配仕様に従い施工を行ってください。

■ 本体仕様

寸法			葺き足	梱包重量	m ² あたり葺き枚数	坪あたり葺き枚数	梱包	パレット積み量
厚み	幅	長さ						
凸部6mm (凹部3mm)	337mm	984mm	143mm	約27kg	約7枚	約23枚	16枚/梱	64梱包

■ 専用付属部材

品名	アルマ用シングル釘(手打ち施工用)	アルマ用連結釘	アルマ重ね葺き用連結釘	アルマ用シングルセメント	アルマ同質棟材用シングル釘
形状・寸法	 φ3mm×25mm	 φ3mm×32mm	 φ3mm×43mm	 使用目安 約6㎡/本	 φ3mm×43mm
品番	SAK100	SAR100	SAR110	SAC1500	SAK110
標準価格(税抜)	3,400円/箱	30,000円/梱	45,000円/梱	2,700円/本	1,200円/袋
梱包	1kg/箱(約630本)	30巻/梱(120本/巻)	30巻/梱(120本/巻)	カートリッジ(330ml)10本入	250g/袋(約100本)
材質	ステンレス	ステンレス	ステンレス	アスファルト系接着剤	ステンレス

■ 同質棟材用付属部材

アルマ同質棟材

■ カラーバリエーション



SAH211 DブラックII



SAH212 DグレーII



SAH213 DブラウンII

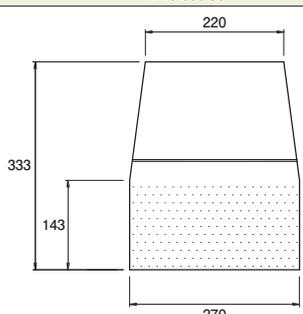


SAH214 DグリーンII



SAH215 DキャメルII

■ アルマ同質棟材仕様

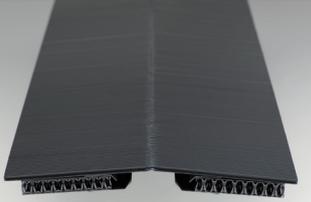
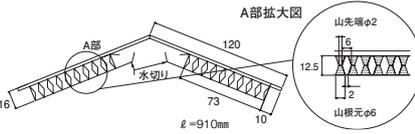
品名	アルマ同質棟材
寸法	 厚み3mm×幅270mm×長さ333mm
品番	SAH21□
標準価格 (税抜)	620円/枚
梱包	30枚/梱



※合成写真ですので実際の施工とは異なる部分があります。

※同質棟材の色はアルマ本体の近似色です。
また、色合いには1枚ごとに微妙な変化をつけております。

■ アルマ同質棟材用棟換気部材

品名	アルマ同質棟材用棟換気部材
形状・寸法	  幅240mm×長さ910mm×高さ16mm
品番	SAF100
標準価格 (税抜)	23,000円/梱
梱包	2本/梱
備考	有効開口面積：156.5cm ² /本 (172cm ² /m) 対応勾配：3.5寸～8.0寸
材質	ポリプロピレン

注) アルマの石落ちについて
本製品では製品表面の粒状石が落下する現象が見られますが、これはアスファルトシングル特有の現象です。粒状石の落下は製品異常ではございません。また、粒状石は天然石に着色されたものであり、有害物質は含んでおりません。



設計・施工上の注意事項

棟換気部材に加えて軒裏用の換気部材等と組み合わせて、住宅金融支援機構の基準に基づく小屋裏換気の構造(吸気口と排気口)としてください。

※棟包み板などの施工関連部材は現地調達をお願いします。
(推奨部材メーカー:株式会社ヨネキン TEL.0725-51-3030 <https://www.yonekin.co.jp>)

施工例

CONSTRUCTION PORTFOLIO



Webで施工例公開中

MODEL

1

北欧風に分譲住宅。アクセントとなる木目柄とアルマが統一感と個性を両立します。

SA305 キャメルAR / SA302 グレーAR

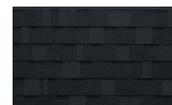


MODEL

2

北欧テイストを巧みに取り入れたスタイリッシュな住まいにも、アルマが自然と溶け込みます。

SA301 ブラックAR





明るく温かみあるキャメルが外壁・外構・ドアの色味にマッチし、一体感ある住まいに。
SA305 キャメルAR

MODEL
3



テクスチャーの異なるアクセントが持ち味の分譲住宅。屋根のブラックが外観を引き締めて街並みと調和します。
SA301 ブラックAR

MODEL
4



施工例

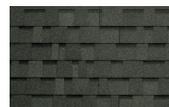
CONSTRUCTION PORTFOLIO

MODEL

5

ホワイトの木目柄にアルマのグレーをコーディネート。全体のナチュラルな印象を、より一層引き立てます。

SA302 グレーAR



MODEL

6

上質感を感じさせる壁面にアルマのブラウンが映え、全体を引き締まった印象に。

SA303 ブラウンAR





設計施工資料

共通施工資料	19 ~ 20
標準施工法(新築)	21 ~ 30
標準施工法(重ね葺き)	31 ~ 43
参考資料	44

安全上の注意事項

アルマを安全にご使用いただくため、施工前に必ずお読みいただき、正しくご使用ください。

なお、この商品は専門施工が必要ですので、工事は必ず屋根専門工事業者様にご依頼ください。

また、アルマを屋根材以外の用途には使用しないでください。

アルマは、住宅などの屋根材として十分満足していただける品質を備えておりますが、耐久性や耐候性などの諸機能は、正しい施工（標準施工）を行うことによってはじめて発揮されるものです。

よって、必ず正しい施工（標準施工）を実施していただくようお願いいたします。



警告 死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 落下事故の危険性がありますので、強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
- 高所作業は関係法規に従って行ってください。
- 金属部材は電線などに触れないように取り扱い、施工してください。感電のおそれがあります。
- 高所や基準を超える積雪のある地域など、アルマの使用可能地域外での使用は製品不具合や施工上の危険をまねくおそれがありますので避けてください。
- 雨や雪、露などで屋根面が濡れている場合は施工しないでください。滑り落ちる可能性があります。
- 屋根施工後は役物の上に乗らないでください。また、屋根材の上の歩行は極力控え、やむを得ず歩行する際は慎重な歩行を心掛けてください。
- 屋根面にはむやみに端材、工具など、物を置かないでください。滑り落ち、怪我や器物破損のおそれがあります。
- 固定していない屋根材、役物などの上には絶対に乗らないでください。滑り落ちる可能性があります。

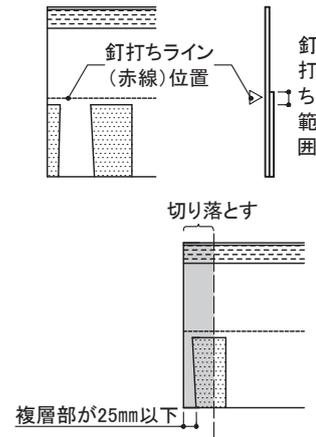


注意 使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損傷の発生が想定されます。

- 建築基準法、消防法、建築用途、施工地域に適合した使用をしてください。
- 動きやすい服装、滑りにくい履物など、作業に適したものを着用してください。
- 作業の際は、ヘルメット、滑り止め付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。
- 工事期間中、毎日の作業終了後には、屋根面を清掃してください。
- 電動工具などをご使用の際は各工具の取扱説明書に従って正しくご使用ください。また、その配線などは漏電しないものを使用してください。
- 梱包部材、残材などは産業廃棄物として処分してください。
- 屋根面に足場を組む場合は必ず養生板を敷いてください。
- はしごをかける場合は、当て木を使い、かつ滑らないように固定してください。また、作業は必ず2人で行ってください。
- 釘打ちの振動でアルマが滑り落ちるおそれがありますので、十分注意してください。
- 作業中、足場から屋根面へ飛び下りたり、物を落としたりしないでください。破損などが生じ、雨漏りなど不具合の原因となります。

本体施工上の注意事項

- 施工前、製品本体ウラ面（足先側）にセルフシーラントが確実に付いていることをご確認ください。セルフシーラントが付いていないと突風などによりアルマ本体が飛散するおそれがあります。なお、セルフシーラントが接着能力を発揮するまでの期間は季節により異なります。アルマ用シングルセメント(品番:SAC1500)を必ず併用して施工を行ってください。また、10寸を超える急勾配屋根ではアルマ本体の自重がかかりにくくなり、セルフシーラントが十分に接着しない場合がございます。施工の際はアルマ用シングルセメント(SAC1500)を所定位置に塗布（必要に応じて増し打ち）のうえ、十分に圧着してください。
- アルマ施工の際、釘打ちは必ず釘打ちライン（赤線）を目安とした複層部分に行います。製品上部カットなどで、やむを得ず釘打ちライン以外の場所に釘打ちする際は、製品の複層部分に釘打ちしてください。釘頭があらわしになる部分はシングルセメント処理となります。
- アルマ製品複層部の幅が25mm以下となる場合、当該部分は経年で剥がれやすくなるため、本体施工時にあらかじめ当該部分を含む製品端部を切り落として施工します。製品本体には製造上、最初から端部において複層部分の幅が非常に小さいものが含まれている場合がございますが、ご了承願います。
- アルマ本体割り付け上、小幅材が出る場合は幅を150mm以上としてください。なお、製品が自着するまでのバタつきを考慮し、幅300mm以上とすることをおすすめします。
- 夏場、屋根面が60℃を超える環境下では施工後の屋根材面の歩行は極力控えてください。アルマ表面が踏みズレをおこすおそれがあります。やむを得ず歩行する際は歩み板を敷くなどの措置を講じ、踏みズレには十分留意してください。
- 冬場、外気温が5℃以下となる場合は、原則アルマの施工を控えてください。製品のうねり（波うち）、ひび割れの原因となります。やむを得ず低温時に施工する際は、日なたなどでアルマを温め、製品が屋根面に馴染むようになってから施工してください。
- 開梱後、アルマ本体裏面のセルフシーラントを下にした状態での仮置きは避けてください。セルフシーラントが熱により屋根面に溶着するおそれがあります。
- 雨天後の施工は、事前に屋根下地の状態を確認し、濡れている場合は施工しないでください。施工する場合は、必ず十分に乾燥した状態で施工を行ってください。



アルマの製品特性について

- アルマはアスファルトを原材料のひとつとしているため、夏期は柔らかく、冬期は硬くなる性質があります。特に冬期施工時には屋根形状に馴染むまでに若干時間がかかる場合がございますので、あらかじめご了承願います。
- アルマの石落ちについて
本製品では製品表面の粒状石が落下する現象が見られますが、これはアスファルトシングル特有の現象です。粒状石の落下は製品異常ではございません。また、粒状石は天然石に着色されたものであり、有害物質は含まれておりません。

保管上の注意

- 倉庫、現場での保管は必ずパレットに載せて保管してください。
- 倉庫での保管は、パレット（64ケース/パレット）は2段以下としてください。
- 現場での保管は、高さ1m以下で保管してください。
- 本体やセルフシーラントは、濡れると接着しなくなるおそれがありますので、雨が掛からない場所に保管するか、養生シートで覆ってください。
- 梱包したままで折り曲げないでください。本体が割れるおそれがあります。また、棟などにまたいで置いたままにしないでください。

設計施工基準

設計施工基準

- 建物の高さは16m以下とします。
- アルマ本体1枚につき、シングル釘4本で均等に留め付けます。
- 基準風速が38m/s以上の強風地域では1枚あたり6本留めで均等に留め付けます。
- 製品端部への釘打ちは端から25mm程度の位置で行います。
- 結露防止のため、住宅金融支援機構仕様書に準じた小屋裏換気を必ず設けてください。
- 屋根勾配は原則3.5寸以上、27.5寸（約70度）以下とします。
緩勾配（2.5寸以上3.5寸未満）の場合は、下表の専用施工仕様に従ってください。
- 流れ長さは20m以下とします。
緩勾配（2.5寸以上3.5寸未満）の場合は、流れ長さ10m以下とします。
- 多雪地域（垂直積雪量がおよそ80cmを超える地域）においては、勾配は3.5寸以上（27.5寸以下）とし、下表の多雪地域専用の施工仕様に従ってください。

勾配と最大流れ長さ、下葺材の施工基準表

	勾配	緩勾配		3.5/10	4.0/10	4.5/10	5.0/10	5.5/10以上
		2.5/10	3.0/10					
一般地域	最大流れ長さ	10m以下		20m以下				
	下葺材施工	防水強化仕様		一般施工仕様				
多雪地域	最大流れ長さ	施工不可		10m以下	15m以下		20m以下	
	下葺材施工	施工不可		防水強化仕様				

下葺材の施工方法については「下葺材の施工」(P23~24)をご参照ください。

下地基準

垂木	間隔：500mm以下 サイズ：屋根の構造や荷重に合わせ、また施工上適切なサイズとしてください。
野地板	普通合板（JAS規格1類）厚み12mm以上 構造用合板（JAS規格特類、1類）厚み12mm以上 OSB（JIS A 5908）厚み12mm以上 野地板は屋根材の重量、屋根の施工者や雪の荷重などで破壊、変形、ゆがみが生じないものを選定し、たわみや不陸、釘の浮き、隙間のないように施工してください。

注)アルマはセメント系野地板、鉄筋コンクリート下地にはご使用いただけません。

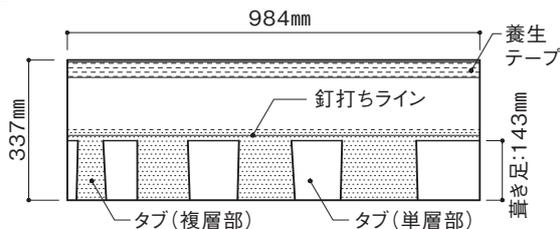
防耐火認定について

- アルマは国土交通省大臣認定（屋根飛び火認定）を取得しております。
ご使用の際は認定内容を確認のうえ施工してください。
飛び火認定番号 DR-1875-1(1)
（認定構造方法の名称）
砂付ガラス繊維入アスファルト系シート・アスファルト系ルーフィング・野地板〔木質系ボード又はセメント板〕表張／
支持部材〔木製又は鋼製〕屋根

製品仕様

■アルマ本体

アルマ本体(オモテ面)



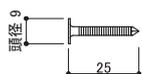
品番	SA30□(口内は色番号)
寸法 (厚み×幅×長さ)	6mm×337mm×984mm (単層部 厚み3mm)
葺き足	143mm

アルマ本体(ウラ面)



㎡あたり葺き枚数	約7枚
梱包	16枚/梱
重量	約1.7kg/枚
梱包重量	約27kg

■アルマ用シングル釘(アルマ本体 手打ち施工用)



φ3mm×25mm
ステンレス製

品番	SAK100
梱包	約630本(1kg)/箱
箱あたり施工枚数	約150枚(一般地域施工)

■アルマ用連結釘(アルマ本体 機械打ち施工用)

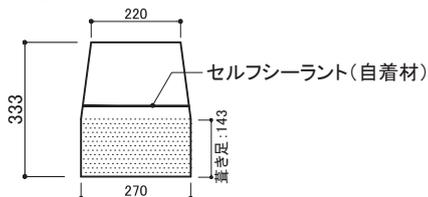


φ3mm×32mm
ワイヤ連結
ステンレス製

品番	SAR100
梱包	30巻/梱(120本/巻)
巻あたり施工枚数	約30枚(一般地域施工)
梱包あたり施工枚数	約900枚(一般地域施工)

注) 連結釘の施工には専用の釘打ち機が必要です。推奨機種については弊社営業所までお問い合わせください。

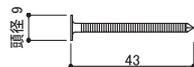
■アルマ同質棟材



品番	SAH21□(口内は色番号)
寸法(厚み×幅×長さ)	3mm×270mm×333mm
葺き足	143mm
梱包	30枚/梱
梱包あたり施工長さ	約4.3m

注) アルマ同質棟材の対応勾配は10寸(45度)以下です。

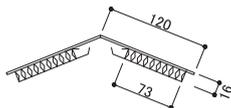
■アルマ同質棟材用シングル釘(アルマ同質棟材 手打ち施工用)



φ3mm×43mm
ステンレス製

品番	SAK110
梱包	約100本(約250g)/袋
袋あたり施工枚数	約25枚(同質棟材施工)

■アルマ同質棟材用棟換気部材



L=910mm
材質: ポリプロピレン
片面ブチルテープ同梱

品番	SAF100
梱包	2本/梱
有効開口面積	156.5cm ² /本(172cm ² /m)
対応勾配	3.5寸~8.0寸

注) 隅棟にはご使用いただけません。

■アルマ用シングルセメント



330ml
カートリッジ

品番	SAC1500
梱包	10本/梱
本あたり施工面積	約6㎡(葺き面積)
梱包あたり施工面積	約60㎡(葺き面積)

注) アルマ用シングルセメントはアルマ施工の際には必ず使用します。

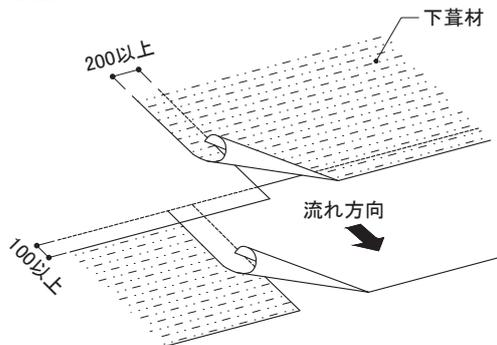
アルマ本体施工に際して、直径20~30mmの点づけ、使用部位により幅5~10mmのビード状に塗布します。シングルセメントの塗りすぎはアルマ本体の膨れ、変形、汚れなどの原因となりますのでご注意ください。

下葺材の施工(一般施工仕様)

※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

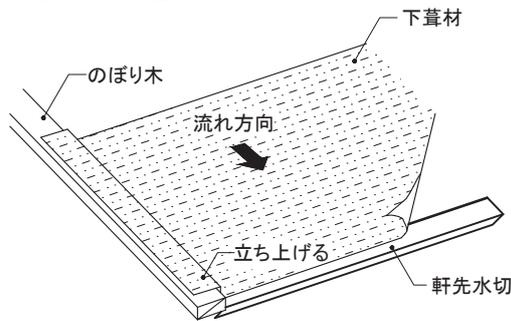
下葺材はアスファルトルーフィング940 (JIS A 6005)または改質アスファルトルーフィング(ゴムアス)を使用します。

一般部



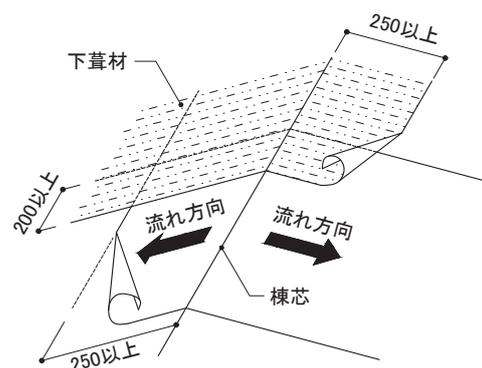
- 重ねしろは上下100mm以上、左右200mm以上とします。

軒先・けらば部



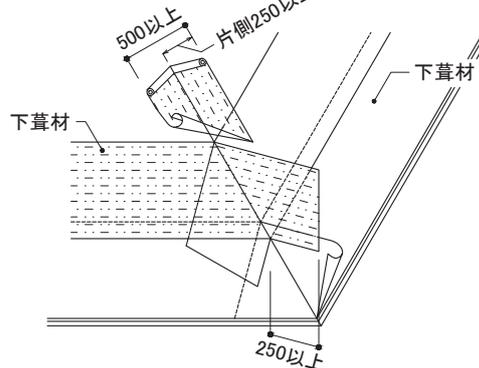
- 軒先部は、軒先水切の半分程度まで下葺材をかぶせます。
- けらば部はのぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。

大棟部



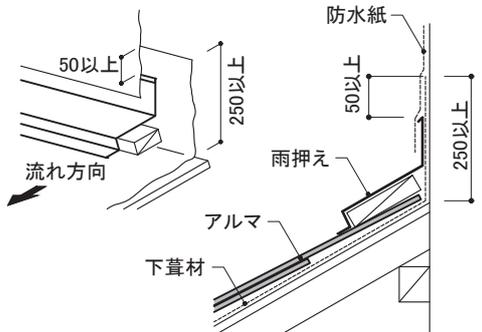
- 大棟部は、片側250mm以上(計500mm以上)重ねます。

隅棟部



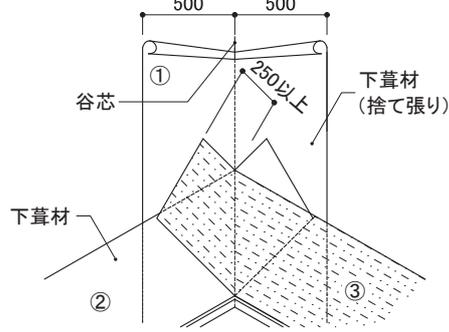
- 隅棟部は、下葺材を隅棟芯より250mm以上敷き延ばして施工した後、幅500mm以上のシートを隅棟芯に沿って施工します。

壁際部



- 壁際部は、250mm以上(雨押え板金の上端より50mm以上)立ち上げます。

谷部

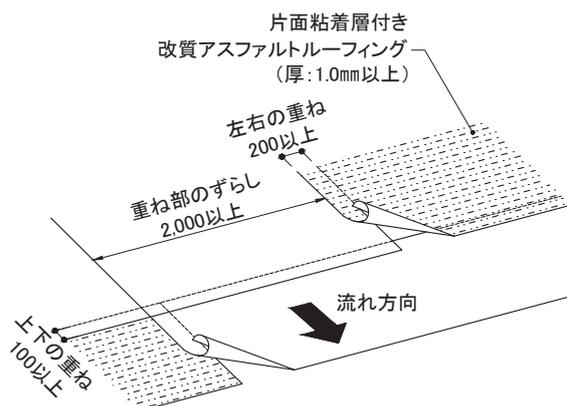


- 谷部は、
①谷芯を中心に下葺材を捨て張りし、
②、③その後、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばします。
(図中の○数字は、施工の順番を表しています。)

下葺材の施工(防水強化仕様)

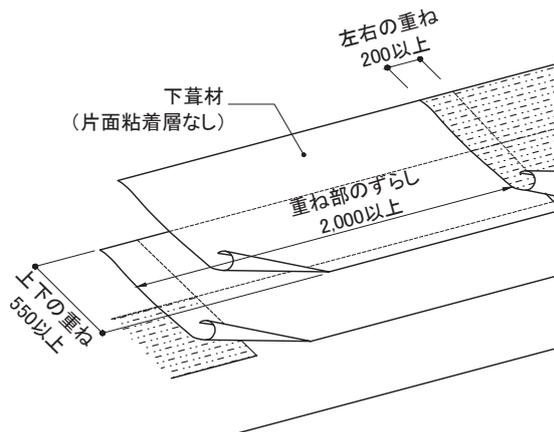
※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

重ねしろ (下葺材：片面粘着層あり)



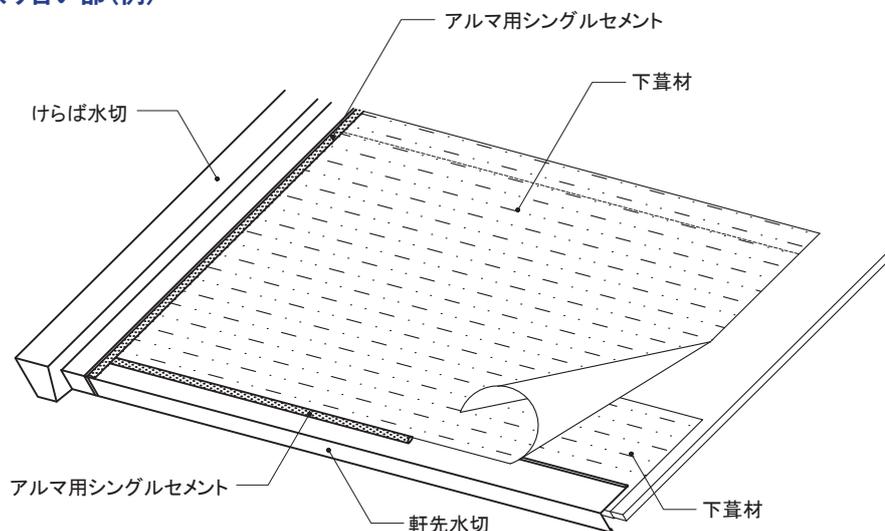
- 重ねしろは、縦方向100mm、横方向200mm以上とします。
- 上下段の重ね部は2,000mm以上ずらします。

重ねしろ (下葺材：片面粘着層なし)



- 重ねしろは、縦方向550mm、横方向200mm以上とします。
- 上下段の重ね部は2,000mm以上ずらします。

板金取り合い部(例)



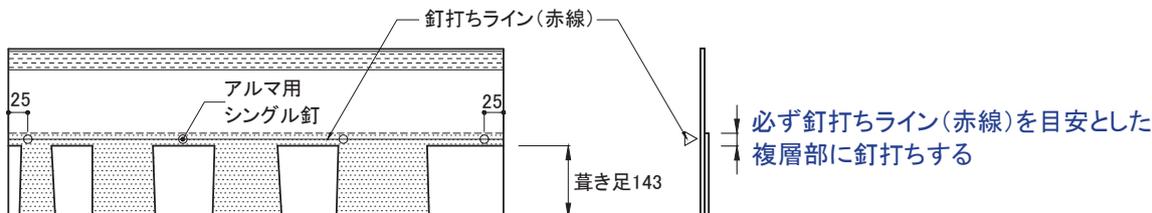
- 下葺材と水切部材との取り合い部には、アルマ用シングルセメント(SAC1500)をビード状に塗布します。
- 上図(けらば水切、軒先水切)のほか、谷板金、捨て水切などの水切部材と下葺材の取り合い部も同様にアルマ用シングルセメントをビード状に塗布します。
- 軒先水切施工前に、野地板を巻き込むように下葺材を施工します。

■施工上の注意事項

- 流れ長さは10m以下とします。
 - 下葺材はアスファルトルーフィング940、改質アスファルトルーフィング、片面粘着層付き改質アスファルトルーフィングをご使用ください。
 - 棟換気部材などを設置する場合は、各換気部材メーカーの設置仕様に従ってください。
- ※本施工仕様は一般施工仕様(一般地域勾配3.5寸以上)と異なりますので、ご注意ください。

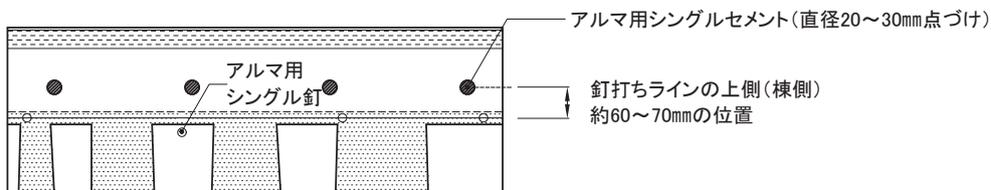
本体施工のポイント

アルマ本体の釘打ち



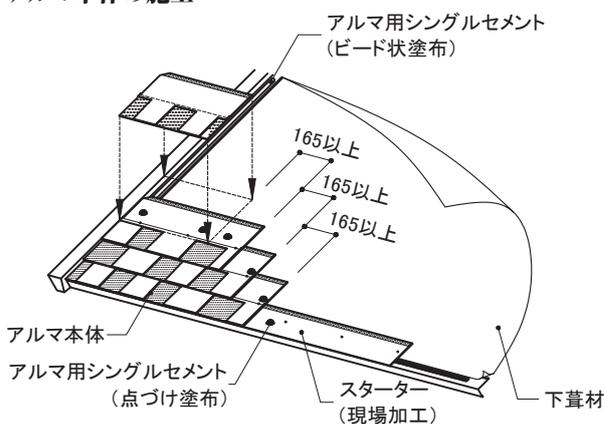
- アルマ本体への釘打ちは必ず釘打ちライン(赤線)を目安とした複層部に行います。
- アルマ本体1枚につき、シングル釘4本(強風地域は6本)で均等に留め付けます。なお、製品端部への釘打ちは端から25mm程度の位置で行います。

アルマ用シングルセメントの塗布

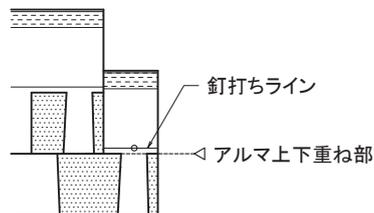


- アルマ用シングルセメントは釘打ちラインの上側(棟側)60~70mmの位置にアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度塗布します。
- アルマ用シングルセメントは直径20~30mmの大きさに点づけにて塗布します。
- 軒先部やけらば部などでピード状に塗布する場合は幅5~10mmとします。
- シングルセメントの塗りすぎはアルマ本体の膨れ、変形、汚れなどの原因となりますので塗布量には十分注意してください。

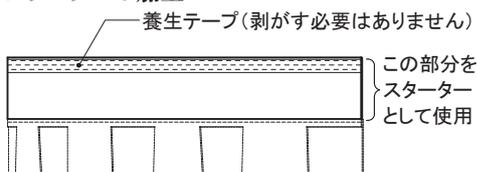
アルマ本体の施工



- アルマ本体施工の際、左右の継ぎ目が下段の継ぎ目と165mm以上ずれるように施工します。
- 左右の継ぎ目は突き付け施工となりますが、詰めすぎに注意してください。
- アルマ本体の上下重ねは下段本体凹部上端にあわせ、釘頭が完全に隠れるように施工します。
注) 釘打ちラインあわせではありません。



スターターの加工

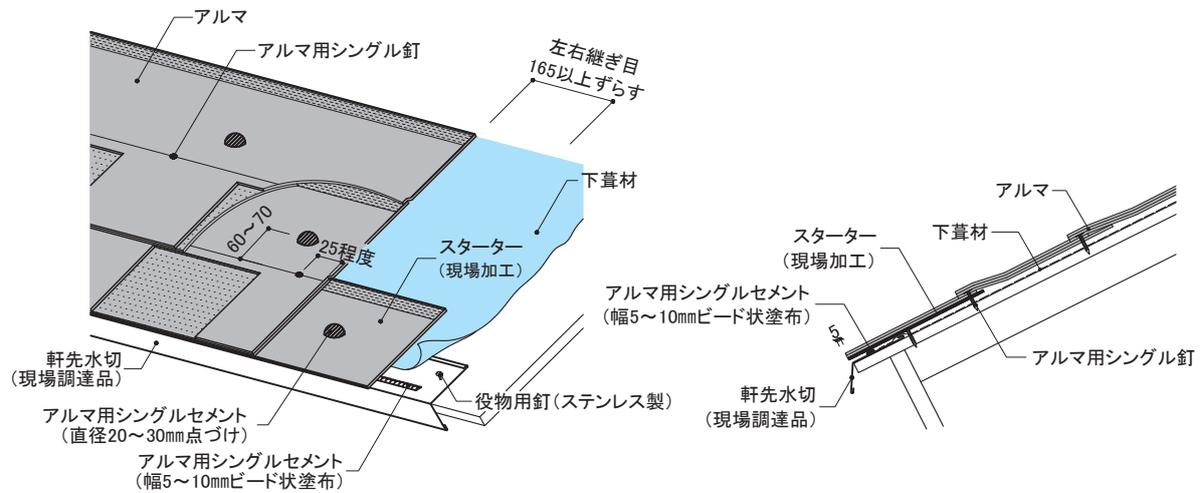


- アルマ本体の下部複層部分を切り落とした上部単層部分をスターターとして使用します。
- 葺き始めスターターは1段目のアルマ本体と左右継ぎ目があわないように165mm以上切断します。
- スターター施工の際は、養生テープを上側(棟側)にして施工します。

軒先部・けらば部の施工

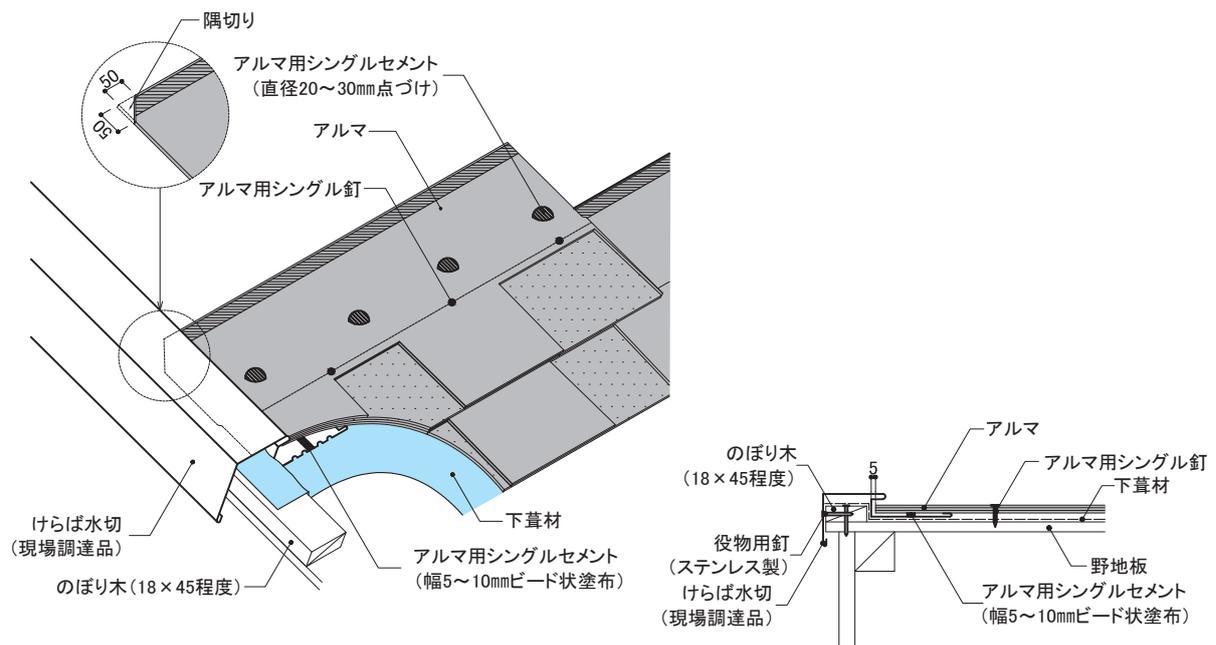
軒先部の施工

- スターターおよび1段目のアルマは軒先水切先端より5mm程度持ち出して施工します。
- スターター施工時に留付釘が軒先水切を貫通しないように留意してください。
- スターターの中段あたりにアルマ用シングルセメントを1枚につき4ヶ所程度、直径20～30mmの大きさに点づけします。
- アルマ用シングルセメントはアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度、釘打ちラインより60～70mm上側(棟側)へ点づけします。
- スターターの左右継ぎ目と1段目アルマ本体の左右継ぎ目は、165mm以上ずらして施工します。



けらば部の施工

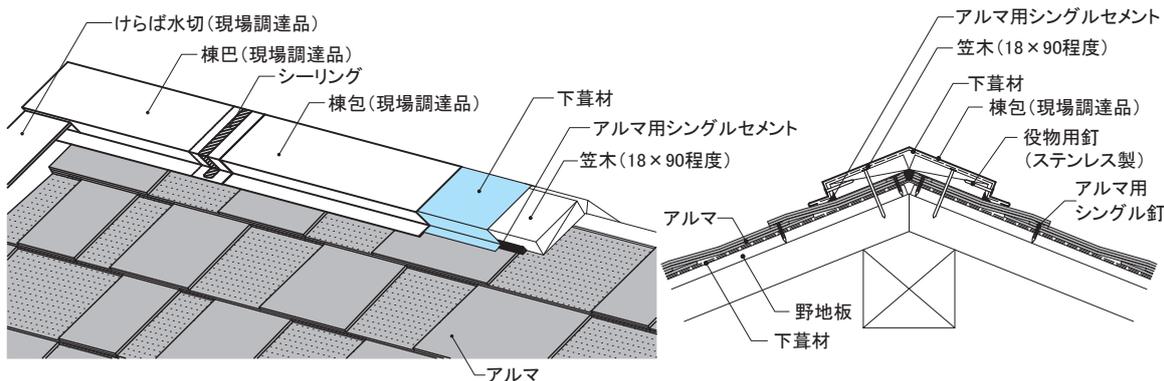
- けらば水切にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- けらば水切とアルマは、5mm程度の隙間を設けて施工します。
- けらば部のアルマは、幅50mm程度隔切りします。
- アルマ本体留め付けの際、シングル釘がけらば水切を貫通しないように留意してください。



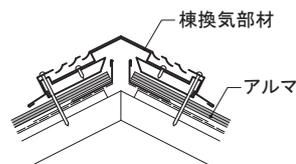
大棟部の施工(板金仕様・同質棟材仕様)

大棟部の施工(板金仕様)

- 最上段のアルマ本体は葺き足長さを短く調整するなどして葺き、釘頭があらわしにならないように施工します。
- 笠木とアルマの取り合い部にアルマ用シングルセメントを塗布します。
- 笠木に下葦材をかぶせ、棟包を施工します。
- 棟包と棟巴の重ね部にはシーリングを施工します。

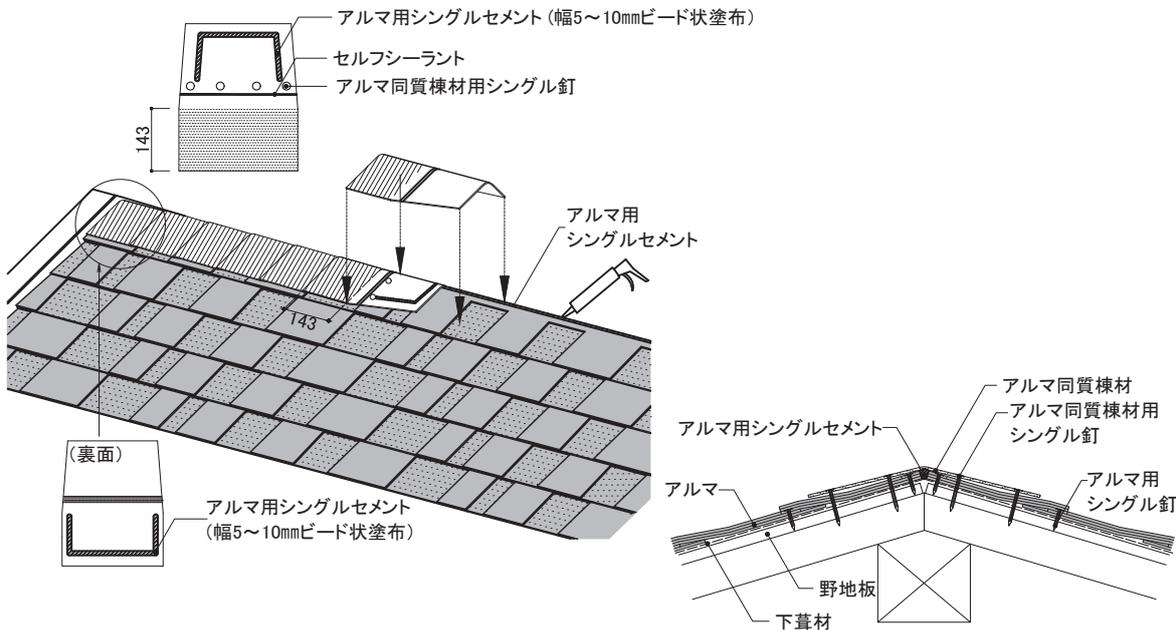


アルマの施工では小屋裏換気を標準としております。棟換気を採用する際は、必要に応じた換気棟セットを取り付けてください。なお、換気棟セットにつきましては、株式会社ヨネキのシングル用棟換気部材を推奨いたします。



大棟部の施工(同質棟材仕様)

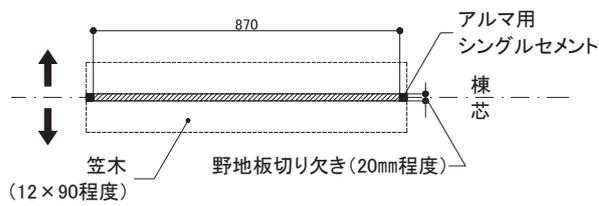
- 同質棟材1枚につき、アルマ同質棟材用シングル釘(φ3mm×43mm)4本で施工します。
- 棟芯に沿って折り曲げる際、同質棟本体の割れを防ぐため、日なたなどで温めてから施工します。
- 同質棟材施工の前に、棟芯にシングルセメントを塗布します。
- 同質棟材の重なり部分には、下図のようにシングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- 1段目の同質棟材裏面に、シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。



大棟部の施工(同質棟材用換気部材)

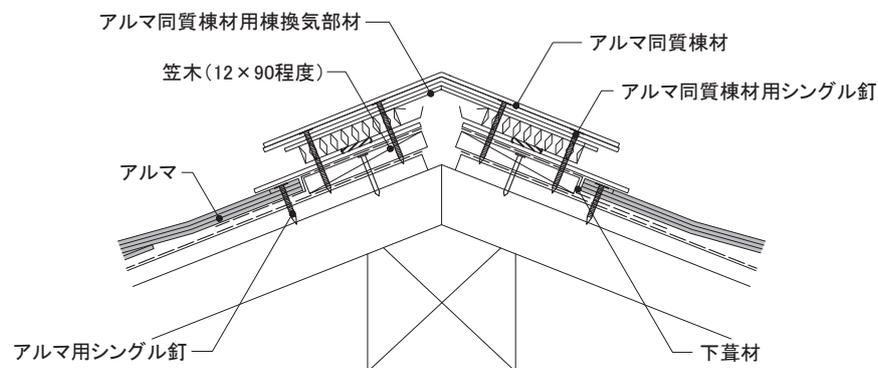
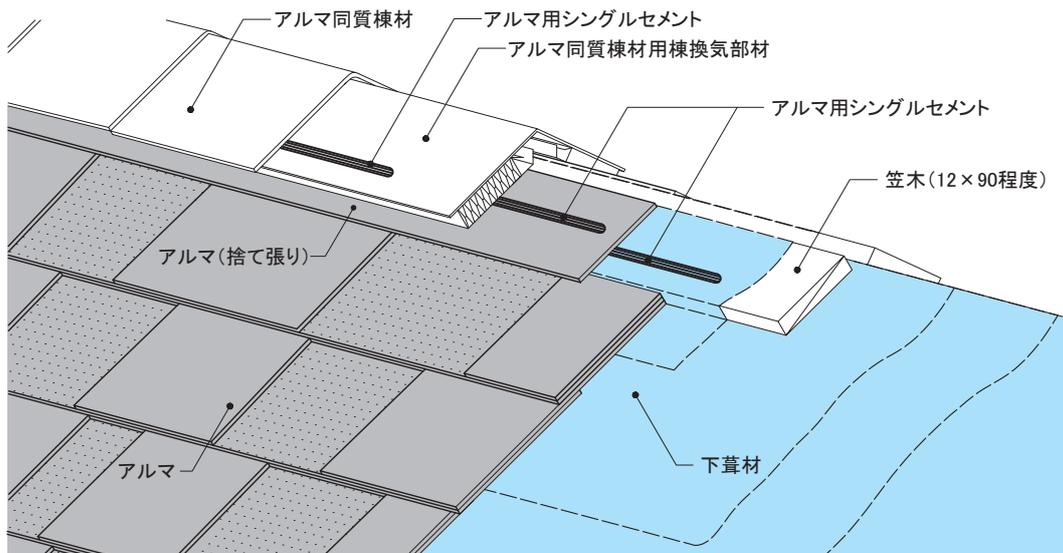
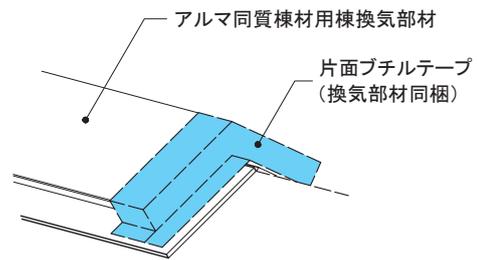
- 棟換気部材取り付け部の野地板を、幅20mm程度切り欠きます。
- 切妻屋根の場合は、開口位置をけらばより300mm以上離れた位置から設けます。
- 笠木に下葺材をかぶせて施工し、その上にアルマを捨て張りします。
- アルマ同質棟材用棟換気部材端部は、同梱の片面プチルテープを隙間のないように貼り付けます。
- アルマ同質棟材用棟換気部材は角部4ヶ所を仮留めし、アルマ同質棟材を施工して固定します。

■野地板の切り欠き



笠木端部には止水のため、アルマ用シングルセメントを隙間のないように施工します。

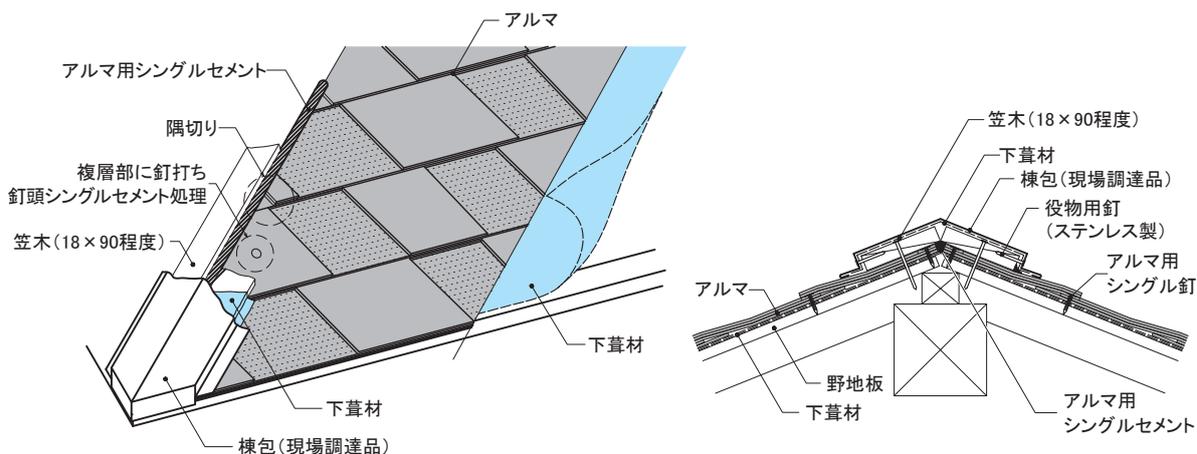
■棟換気部材端部



隅棟部の施工(板金仕様・同質棟材仕様)

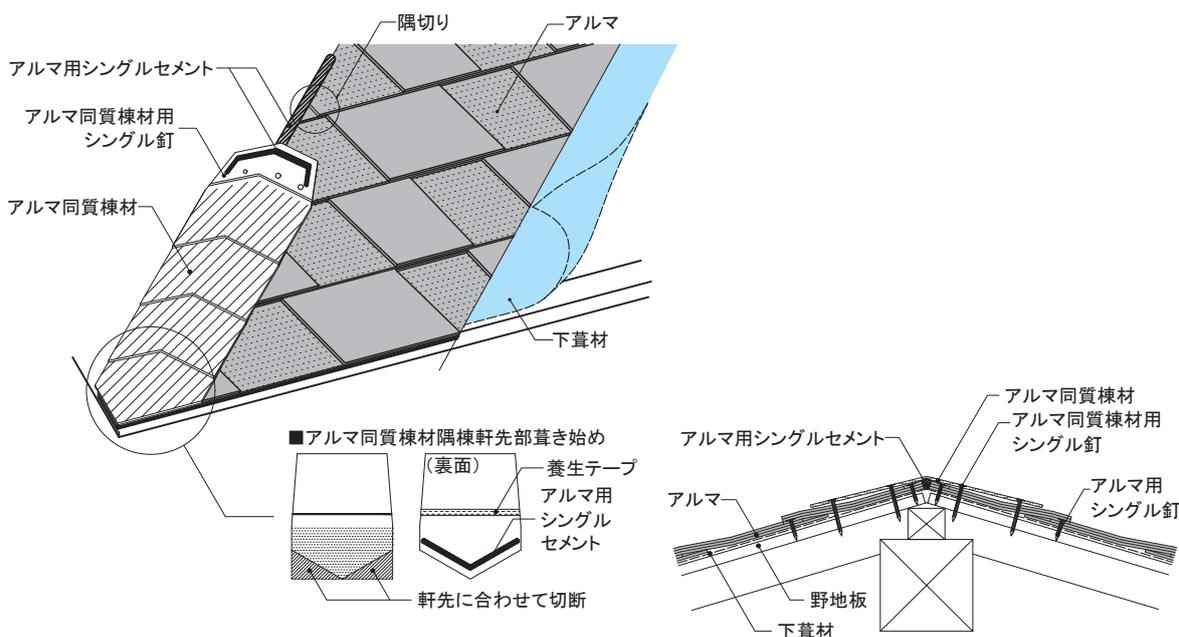
隅棟部の施工(板金仕様)

- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体複層部分の棟包で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。



隅棟部の施工(同質棟材仕様)

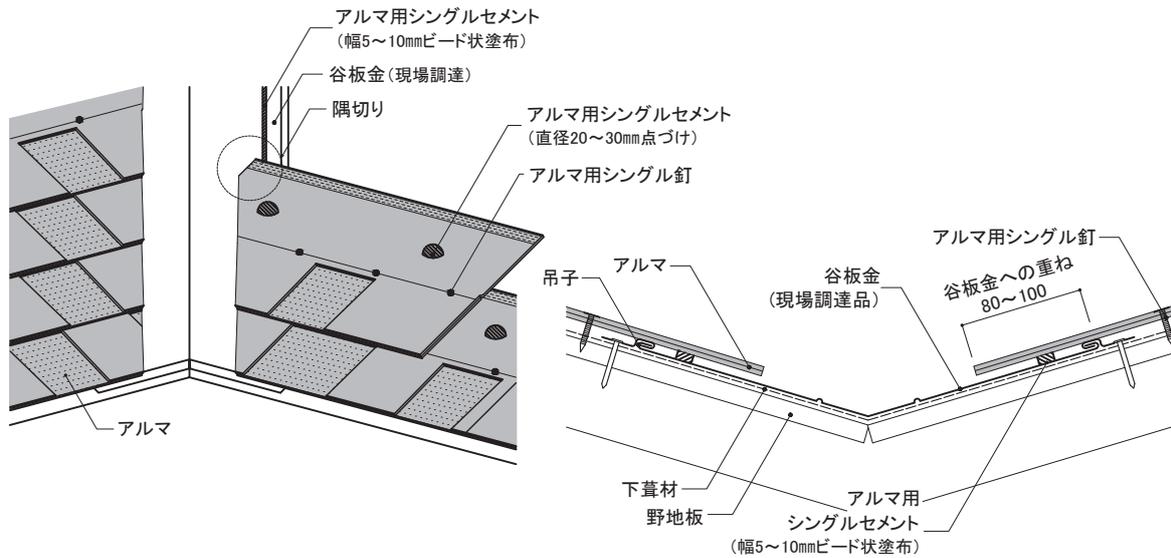
- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体の複層部分で同質棟材で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。
- 軒先スタート部は軒先角度に合わせて切断して裏面にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布し、葺き始めます。



谷部の施工(板金仕様)・壁際部の施工

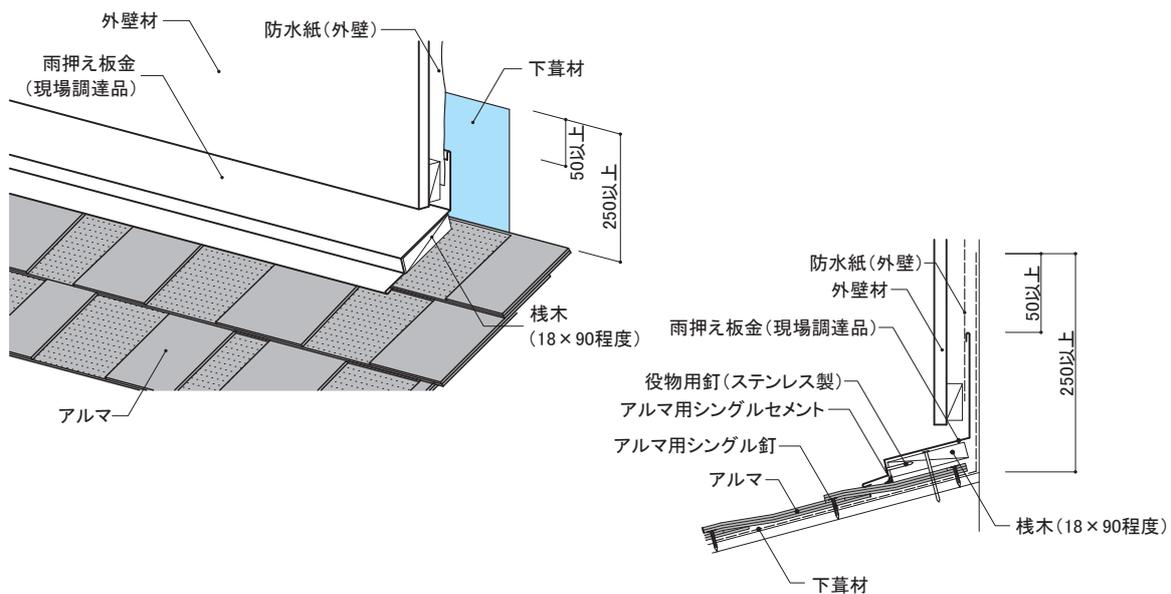
谷部の施工(板金仕様)

- 谷板金は直接釘で留め付けず、必ず吊子で取り付けます。
- アルマを谷板金に80～100mm重ねて施工します。
- 谷部に掛かるアルマの上部角は50mm程度隅切りします。
- アルマ本体留め付けの際、釘が谷板金を貫通しないように留意してください。
- 谷板金にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布し、アルマ本体と接着します。



壁際部の施工

- アルマを施工後、栈木(18×90mm程度)、雨押え板金を設置します。
- 栈木とアルマの取り合い部にアルマ用シングルセメントを塗布します。
- 下葺材を屋根面より250mm以上かつ、雨押え板上端より50mm以上立ち上げます。



施工前の確認事項

重要 必ずご確認ください！

既存屋根材がセメント系新生瓦の場合、石綿(アスベスト)を含有しているかどうかをご確認ください。
石綿(アスベスト)が含まれている屋根材の場合、専用の施工方法にて下葺材の施工を行ってください。
既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。

▽既存屋根材がセメント系新生瓦で石綿(アスベスト)を含む場合

⇒「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」による下葺材の施工

〔適用下葺材〕 アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)または改質アスファルトルーフィング
(片面粘着層のないものに限る)

▽既存屋根材がセメント系新生瓦で石綿(アスベスト)を含まない場合

⇒片面粘着層付下葺材を使用、もしくは石綿含有時の専用工法のいずれか

〔適用下葺材〕 厚さ1.0mm以上の片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング
または「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」適用下葺材

▽既存屋根材がアスファルトシングルの場合

⇒片面粘着層付下葺材を使用、もしくは石綿含有時の専用工法のいずれか

※片面粘着層付下葺材を施工する際、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めしてください。

〔適用下葺材〕 厚さ1.0mm以上の片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング
または「ニチハ『あんしん』屋根カバー工法」適用下葺材

設計施工基準

- 建物の高さは16m以下とします。
- 既存垂木間隔が500mm以下であることを確認してください。
- 既存屋根材(セメント系新生瓦、アスファルトシングル)の厚みは6mm以下とします。
- 既存野地板は厚みが12mm以上の普通合板同等以上の木製野地板とします。
- 屋根勾配は3.5寸以上、27.5寸(約70度)以下とします。
緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)の場合は専用の施工仕様に従ってください。
- 流れ長さは20m以下とします。
緩勾配(2.5寸以上3.5寸未満)の場合は、流れ長さ10m以下とします。
- 多雪地域(垂直積雪量がおよそ80cmを超える地域)においては、勾配は3.5寸以上(27.5寸以下)とし、下表の多雪地域専用の施工仕様に従ってください。
- 基準風速が38m/s以上の強風地域では専用の施工方法(1枚あたり6本留め)にて行います。
- 小屋裏結露防止のため、住宅金融支援機構仕様書に準じた小屋裏換気を必ず設けてください。

勾配と最大流れ長さ、下葺材の施工基準表

		勾配	緩勾配		3.5/10	4.0/10	4.5/10	5.0/10	5.5/10 以上
			2.5/10	3.0/10					
一般地域	最大流れ長さ		10m以下		20m以下				
	既存屋根	石綿なし	重ね葺き仕様						
		石綿あり	『あんしん』屋根カバー工法(緩勾配)	『あんしん』屋根カバー工法(一般)					
多雪地域	最大流れ長さ		10m以下	15m以下	20m以下				
	既存屋根	石綿なし	施工不可						
		石綿あり	『あんしん』屋根カバー工法(多雪)				『あんしん』屋根カバー工法(一般)		

下葺材の施工方法については「下葺材の施工」(P33~36)をご参照ください。

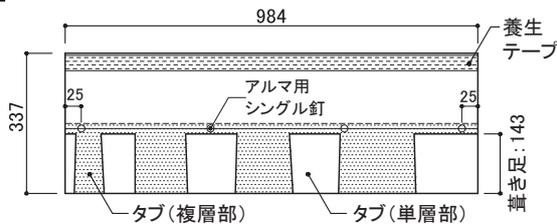
事前調査

- 既存状態で漏水がある場合は、どこから漏水しているか水の浸入箇所を突き止め、確実な防水処理を行ってください。
- 既存屋根の実測を行い、勾配、流れ長さなどが「設計施工基準」に適合することをご確認ください。
- 既存屋根材の状態をご確認ください。脱落などがある場合は段差を埋めるなど適切な処置を行ってから施工してください。
- 片面粘着層付き下葺材を使用する場合、粘着層の接着確保のため、既存屋根面の塵埃、苔を落としてから下葺材を施工してください。
- 太陽光発電パネル、温水器など既存屋根上に設置物がある場合は、必ず専門工事業者に配線、脱着工事などを相談してください。

製品仕様

■アルマ本体

アルマ本体(オモテ面)



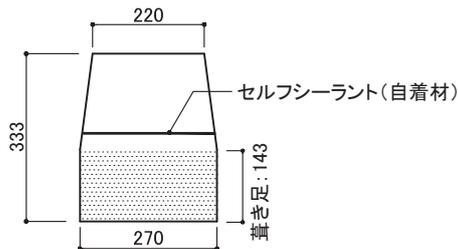
品番	SA30□(□内は色番号)
寸法 (厚み×幅×長さ)	6mm×337mm×984mm (単層部 厚み3mm)
葺き足	143mm

アルマ本体(ウラ面)



㎡あたり葺き枚数	約7枚
梱包	16枚/梱
重量	約1.7kg/枚
梱包重量	約27kg

■アルマ同質棟材



品番	SAH21□(□内は色番号)
寸法(厚み×幅×長さ)	3mm×270mm×333mm
葺き足	143mm
梱包	30枚/梱
梱包あたり施工長さ	約4.3m

注)アルマ同質棟材の対応勾配は10寸(45度)以下です。

■アルマ重ね葺き用連結釘(アルマ本体 機械打ち施工用)



品番	SAR110
梱包	30巻/梱(120本/巻)
巻あたり施工枚数	約30枚(一般地域施工)
梱包あたり施工枚数	約900枚(一般地域施工)

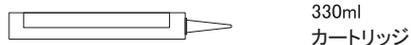
注)隅棟にはご使用いただけません。

注)連結釘の施工には専用の釘打ち機が必要です。

推奨機種については弊社営業所までお問い合わせください。

アルマ同質棟材用シングル釘(品番:SAK110)を使用した手打ち施工も可能です。

■アルマ用シングルセメント



品番	SAC1500
梱包	10本/梱
本あたり施工面積	約6㎡(葺き面積)
梱包あたり施工面積	約60㎡(葺き面積)

注)アルマ用シングルセメントはアルマ施工の際には必ず使用します。

アルマ本体施工に際して、直径20~30mmの点づけ、使用部分により幅5~10mmのビード状で塗布します。

シングルセメントの塗りすぎはアルマ本体の膨れ、変形、汚れなどの原因となりますのでご注意ください。

下葺材の施工(既存屋根が石綿を含まない場合)

※既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。

※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

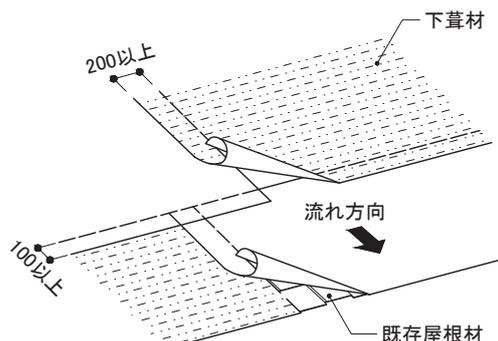
重ね葺き仕様(既存屋根が石綿を含まない場合)

●本下葺材施工仕様は既存屋根材が石綿を含まないセメント系新生瓦、アスファルトシングルの際に適用されます。

【使用する下葺材】

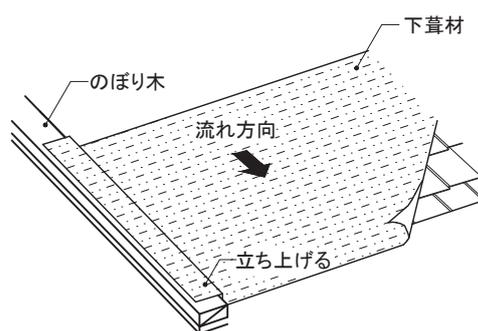
片面粘着層付き改質アスファルトルーフィング:厚1.0mm以上

一般部



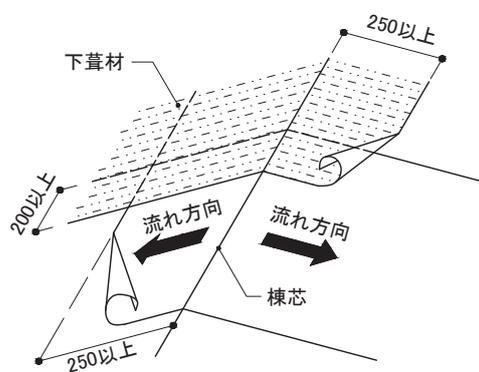
●重ねしろは、上下100mm以上、左右200mm以上とします。

軒先・けらば部



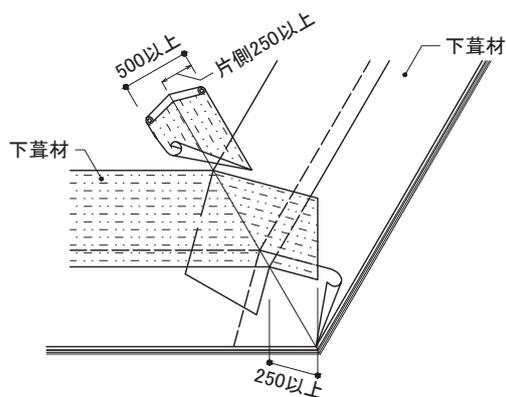
●既存けらば水切の上へのぼり木を設置し、下葺材を立ち上げます。

大棟部



●大棟部は、片側250mm以上(計500mm以上)重ねます。

隅棟部



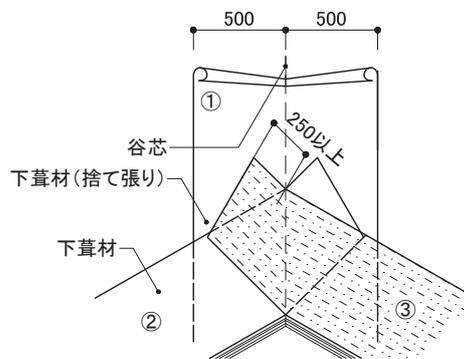
●隅棟部は、屋根面より250mm以上延長して下葺材を敷き延ばして施工した後、幅500mm以上のシートを隅棟芯に沿って施工します。

谷部

●谷部は、

- ①谷芯を中心に下葺材を捨て張りし、
- ②、③その後、両側から谷芯より250mm以上敷き延ばします。

(図中の○数字は、施工の順番を表しています。)



※既存屋根材がアスファルトシングルの場合、既存屋根材の表面状態により、十分な接着が得られない場合があるため、必要に応じて板金、釘などを用いて下葺材を仮留めしてください。

下葺材の施工(既存屋根が石綿を含む場合)

※既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。

※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(一般)(既存屋根が石綿を含む場合)

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法は、石綿(アスベスト)を含んだセメント系新生瓦の上に重ね葺き工法により屋根材を施工する際、片面粘着層の付いていない下葺材を使用することで、将来的な建物の解体時の廃棄物(石綿含有建材)分離処分をしやすいものです。下葺材の固定には「あんしん壁倍率5.0用めっき鋼板」または30×30mm以上の鋼板(現地調達)を使用し、重ね葺き専用釘で留め付けます。

・下葺材留め付け補助部材

商品名	品番	サイズ
あんしん壁倍率5.0 めっき鋼板	FA4000	0.35×30×855mm

・下葺材固定用釘

商品名	品番	サイズ
アルマ重ね葺き用連結釘	SAR110	φ3mm×43mm

※連結釘の施工には専用の釘打ち機が必要です。推奨機種については弊社営業所までお問い合わせください。

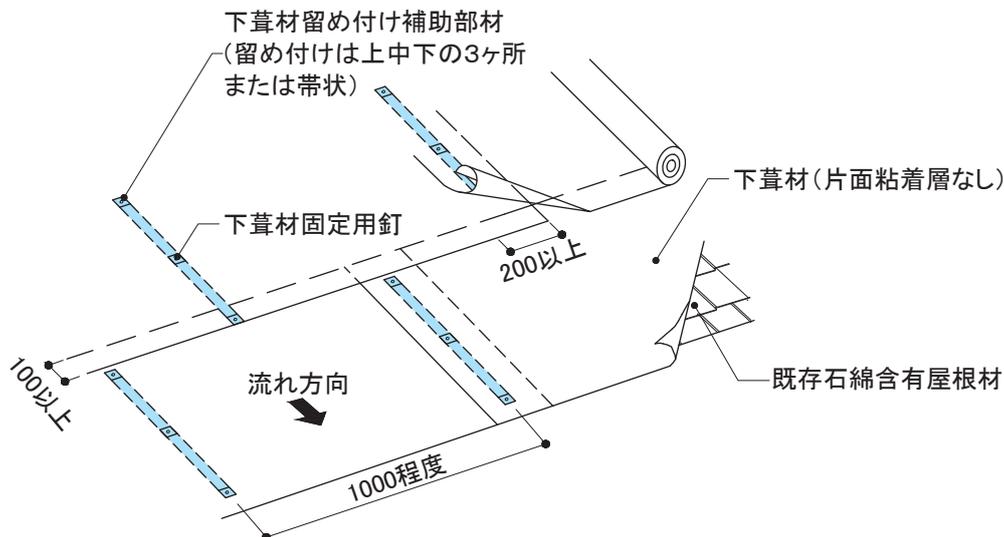
■下葺材の施工方法(勾配3.5寸以上の場合)

- 重ねしろは上下100mm以上、左右200mm以上とします。
- 下葺材留め付け補助部材は流れ方向に平行に留め付けます。
- 既存屋根材の上の下葺材を敷きながら1000mm程度の間隔で下葺材留め付け補助部材を施工します。
- 下葺材留め付け補助部材は、上中下の3ヶ所を下葺材固定用釘にて留め付けます。
- 下葺材の左右重ね部分には必ず下葺材留め付け補助部材を設置し、固定します。
- 施工する地域の風の強さ、下葺材施工後の新規屋根施工までの間隔を考慮し、必要に応じて下葺材留め付け補助部材の数を増やすなど調整してください。

【使用する下葺材】

アスファルトルーフィング910(JIS A 6005)、改質アスファルトルーフィング(ゴムアス):厚1.0mm以上

■一般部

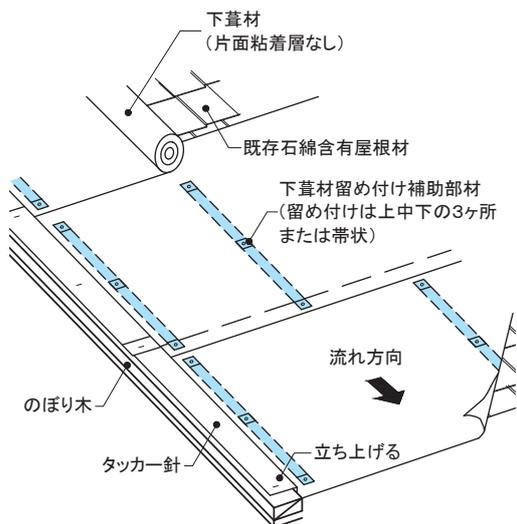


下葺材の施工(既存屋根が石綿を含む場合)

※既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。
 ※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

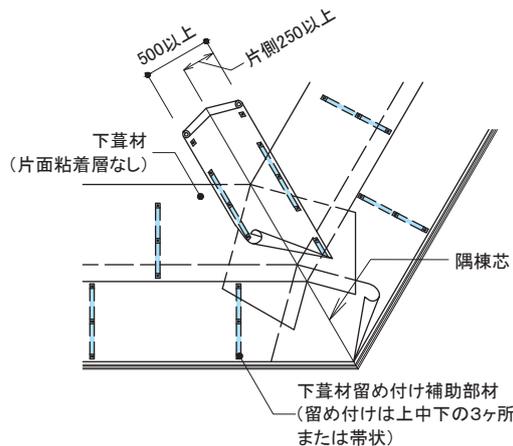
ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(一般)(既存屋根が石綿を含む場合)

けらば部



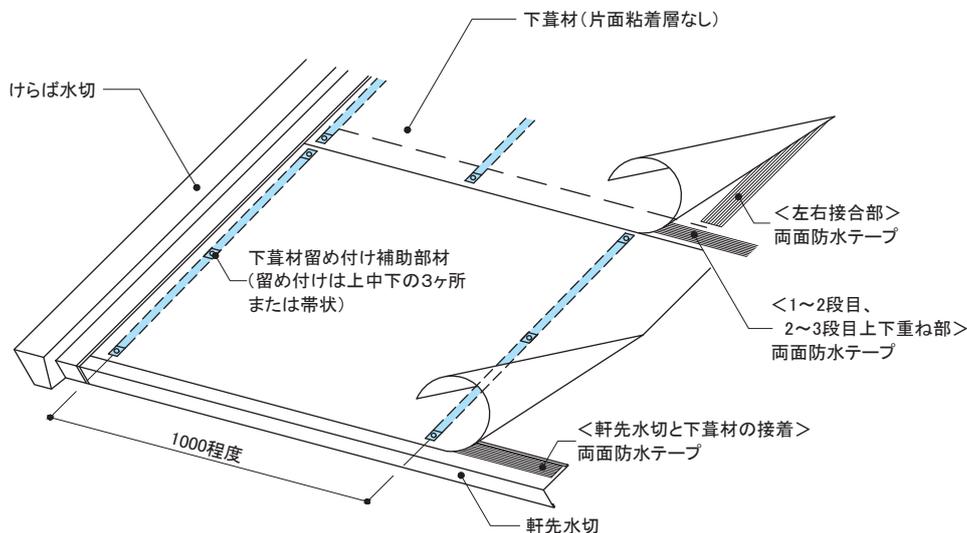
- けらば端部は全段の下葺材を下葺材留め付け補助部材で固定します。
- のぼり木に対してはタッカー針で固定します。

隅棟部



- 隅棟部に重ねる下葺材端部に、下葺材留め付け補助部材を隅棟芯に沿って固定します。

緩勾配仕様(2.5寸以上3.5寸未満)



- 緩勾配屋根の場合は軒先水切と下葺材の間に両面防水テープを貼り付け、下葺材を固定します。
- 下葺材の重ね代は上下100mm以上、左右200mm以上とします。
- 下葺材の上下重ね部分、左右重ね部分は全段両面防水テープにて下葺材どうしを接着します。
- 左右(桁方向)重ね部分は上下段で2000mm以上ずらします。

下葺材の施工(既存屋根が石綿を含む場合)

※既存屋根材が石綿含有建材の場合、建築物等の解体工事における各種法令を遵守し、適切に対応してください。

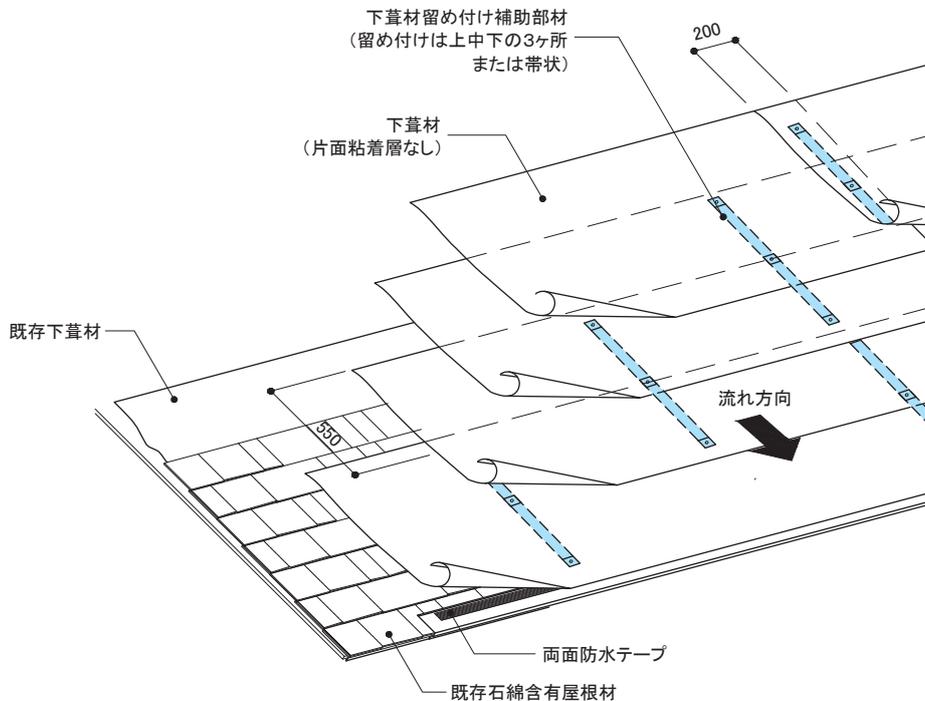
※下葺材の施工は、住宅会社様・工事店様にて保険機構等の仕様をご確認頂き、雨漏れしないよう確実に行ってください。参考として保険機構等の代表例を下記に記載します。

ニチハ『あんしん』屋根カバー工法(多雪)(既存屋根が石綿を含む場合)

- 本下葺材施工仕様は既存屋根材が石綿(アスベスト)を含むセメント系新生瓦への重ね葺き工法で、「積雪A地域」における「屋根勾配3.5寸以上5.0寸未満」の屋根に適用されます。
- 「積雪A地域」においては、板金役物の接合部には必ずシーリング処理を行います。
 また、谷、けらばなど板金役物とアルマとの取り合い部にはシングルセメントを捨て打ちします。

【使用する下葺材】

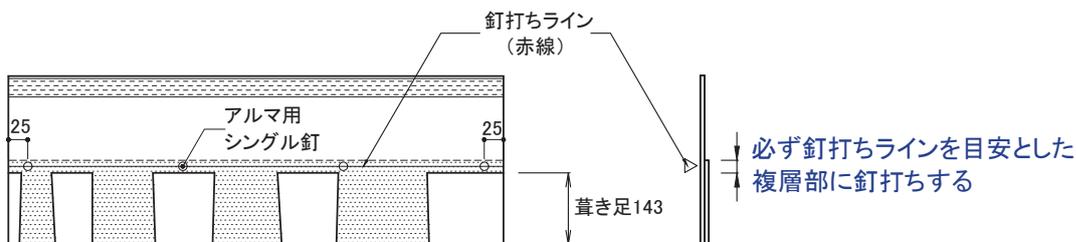
アスファルトルーフィング940(JIS A 6005)、改質アスファルトルーフィング(ゴムアス):厚1.0mm以上



- 重ねしろは、上下550mm程度、左右200mm以上としてください。
- 左右重ね部分は上下段で2000mm以上ずらしてください。

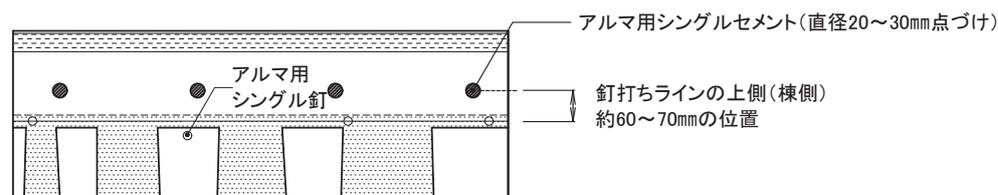
本体施工のポイント

アルマ本体の釘打ち



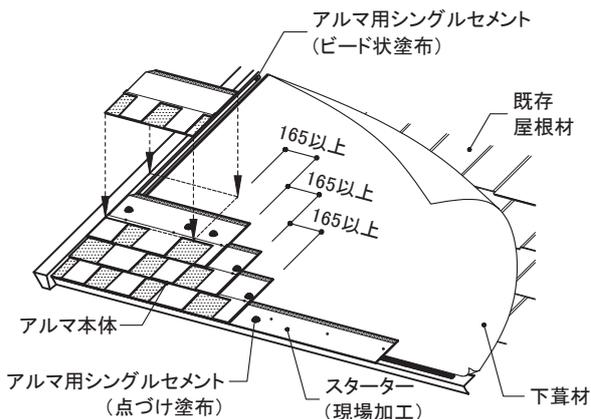
- アルマ本体への釘打ちは必ず釘打ちライン(赤線)を目安とした複層部に行います。
- アルマ本体1枚につき、シングル釘4本(強風地域は6本)で均等に留め付けます。なお、製品端部への釘打ちは端から25mm程度の位置で行います。

アルマ用シングルセメントの塗布

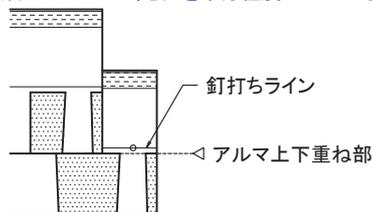


- アルマ用シングルセメントは釘打ちラインの上側(棟側)60~70mmの位置にアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度塗布します。
- アルマ用シングルセメントは直径20~30mmの大ききで点づけにて塗布します。
- 軒先部やけらば部などでピード状に塗布する場合は幅5~10mmとします。
- シングルセメントの塗りすぎはアルマ本体の膨れ、変形、汚れなどの原因となりますので塗布量には十分注意してください。

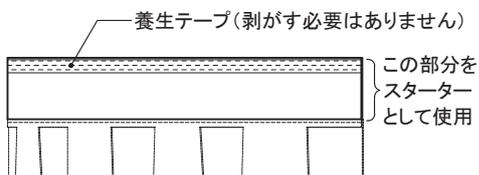
アルマ本体の施工



- アルマ本体施工の際、左右の継ぎ目が下段の継ぎ目と165mm以上ずれるように施工します。
- 左右の継ぎ目は突き付け施工となりますが、詰めすぎに注意してください。
- アルマ本体の上下重ねは下段本体凹部上端にあわせ、釘頭が完全に隠れるように施工します。
注) 釘打ちラインあわせではありません。
※複層シングルへ重ね葺きする場合のみ、段差解消のため、葺き始め2段目のアルマの葺き足を半分程度としてください。



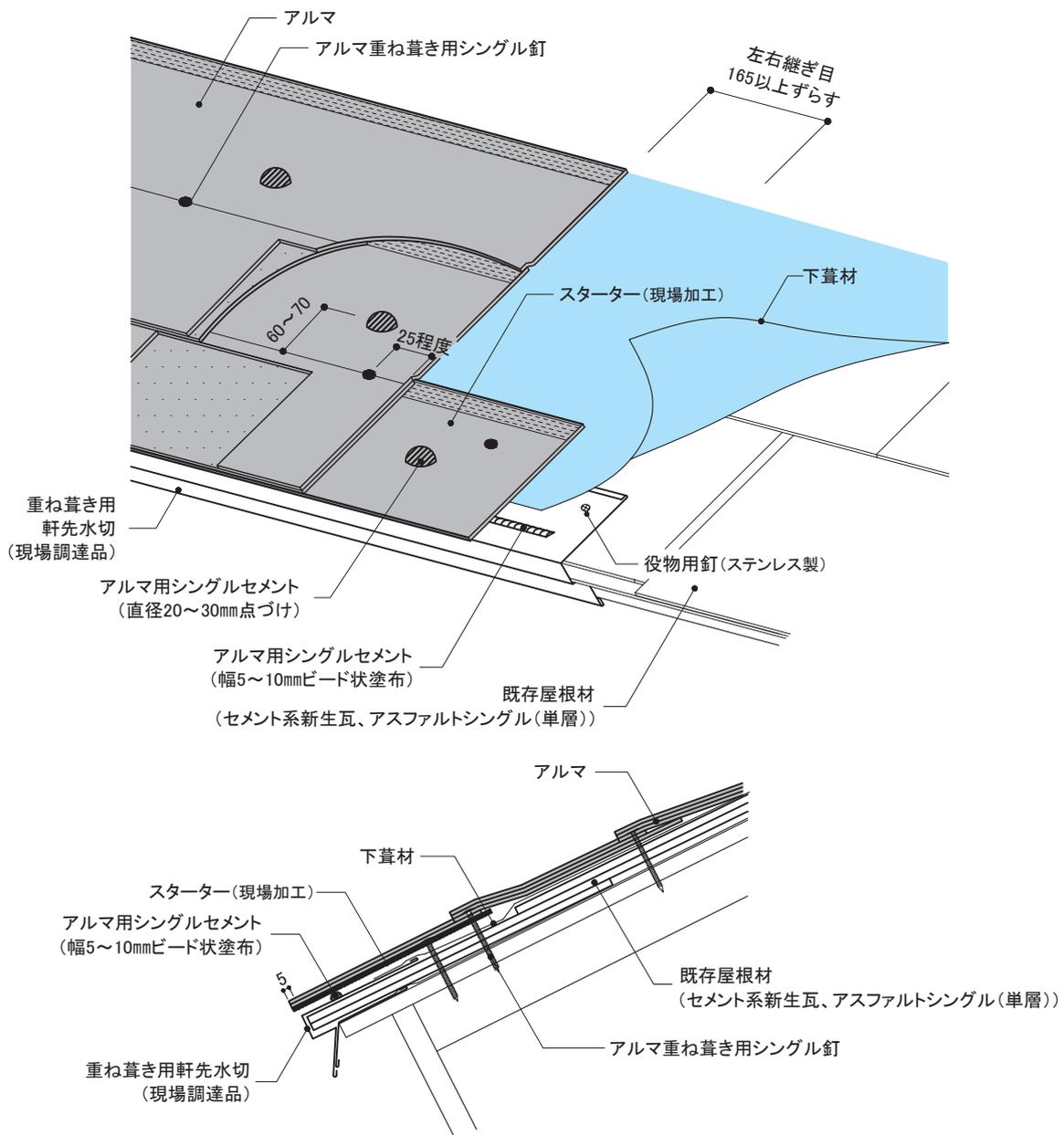
スターターの加工



- アルマ本体の下部複層部分を切り落とした上部単層部分をスターターとして使用します。
- 葺き始めスターターは1段目のアルマ本体と左右継ぎ目があわないように165mm以上切断します。
- スターター施工の際は、養生テープを上側(棟側)にして施工します。

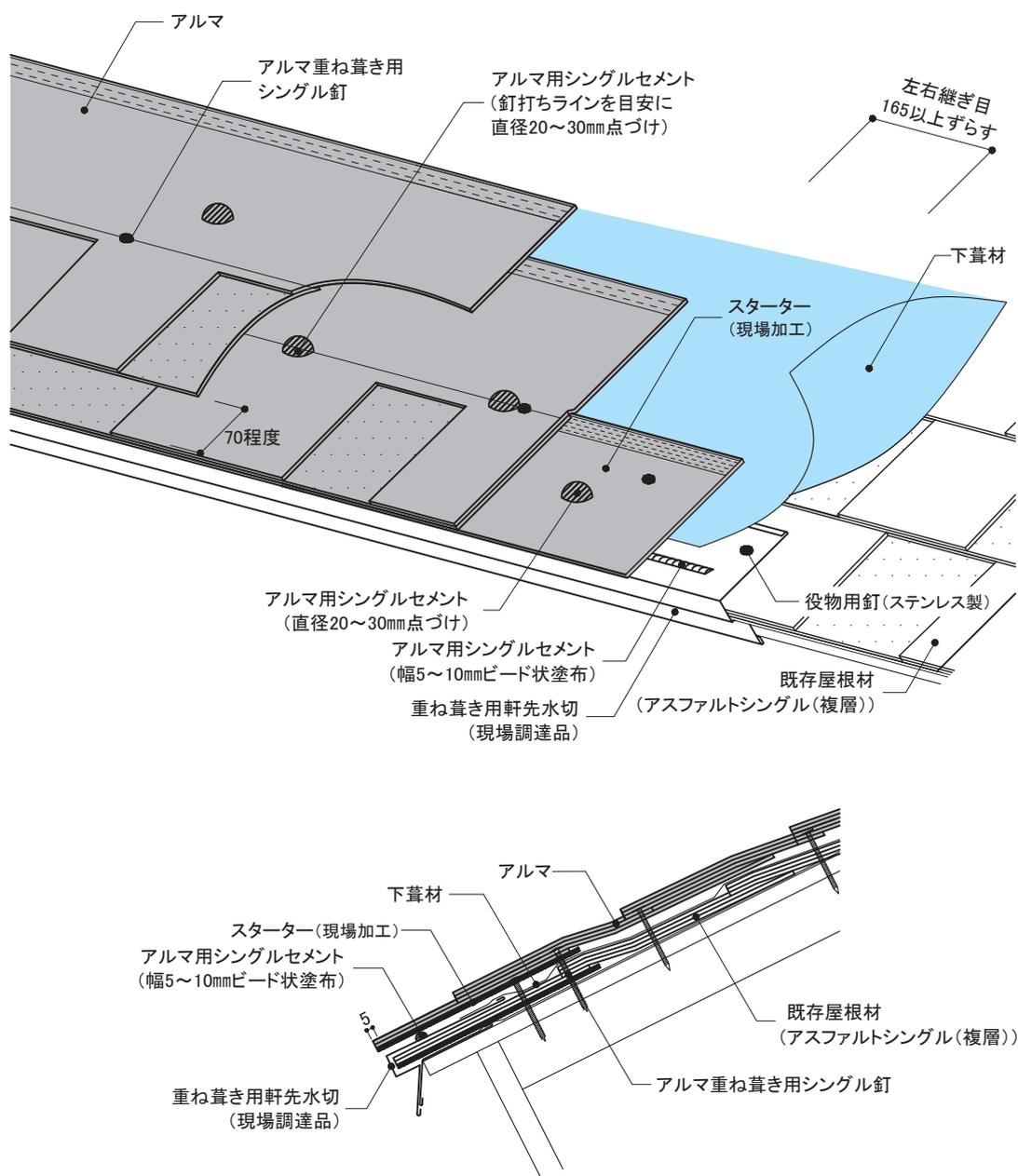
軒先部の施工(既存屋根:セメント系新生瓦、アスファルトシングル(単層))

- 既存屋根と既存樋との位置関係を確認し、必要に応じて既存屋根材の軒先を切断します。
- スターターおよび1段目のアルマは軒先水切先端より5mm程度持ち出して施工します。
- スターター施工時に留付釘が軒先水切を貫通しないように留意してください。
- スターターの中段あたりにアルマ用シングルセメントを1枚につき4ヶ所程度、直径20～30mmの大ききで点づけします。
- アルマ用シングルセメントはアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度、釘打ちラインより60～70mm上側(棟側)に点づけします。
- スターターの左右継ぎ目と1段目アルマ本体の左右継ぎ目は165mm以上ずらして施工します。



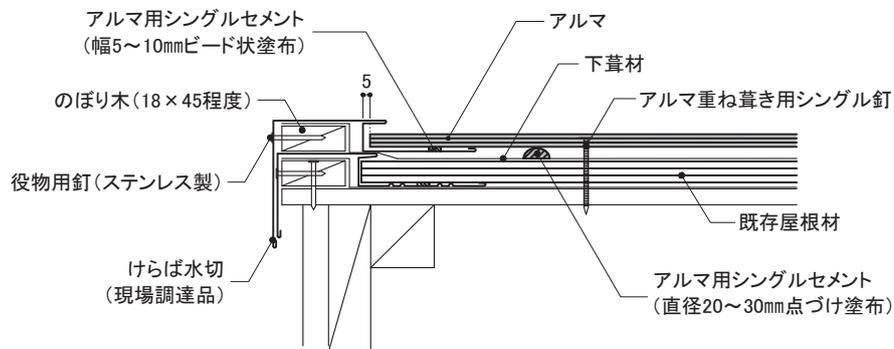
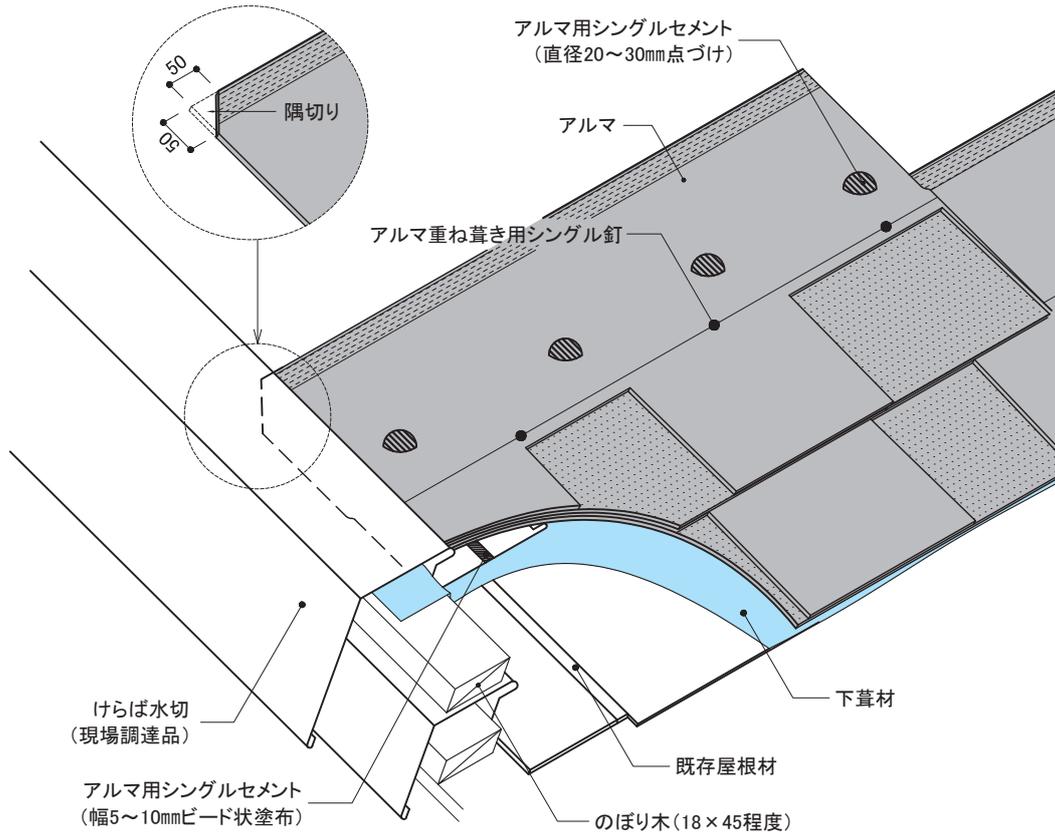
軒先部の施工(既存屋根:アスファルトシングル(複層))

- 既存屋根と既存樋との位置関係を確認し、必要に応じて既存屋根材の軒先を切断します。
- スターターおよび1段目のアルマは軒先水切先端より5mm程度持ち出して施工します。
- スターター施工時に留付釘が軒先水切を貫通しないように留意してください。
- スターターの中段あたりにアルマ用シングルセメントを1枚につき4ヶ所程度、直径20～30mmの大きさに点づけします。
- スターターの左右継ぎ目と1段目アルマ本体の左右継ぎ目は165mm以上ずらして施工します。
- 1段目のアルマの釘打ちラインを目安に、アルマ用シングルセメントを本体定尺品1枚につき4ヶ所程度点付けします。
- 2段目のアルマは1段目のアルマの軒先側先端より70mmの位置に施工します。
- 2段目以降は、アルマ用シングルセメントをアルマ本体定尺品1枚につき4ヶ所程度、釘打ちラインより60～70mm上側(棟側)に点づけします。



けらば部の施工

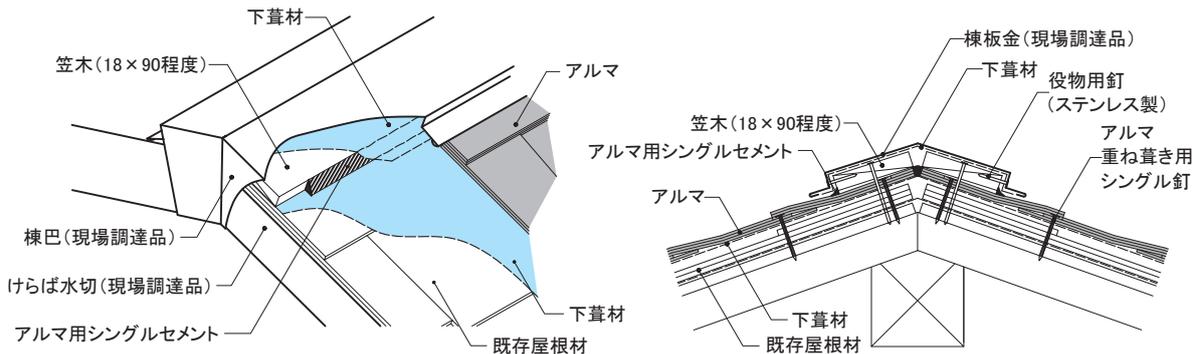
- けらば水切にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- けらば水切とアルマは、5mm程度の隙間を設けて施工します。
- けらば部のアルマは、幅50mm程度隅切りします。
- アルマ本体留め付けの際、シングル釘がけらば水切を貫通しないように留意してください。



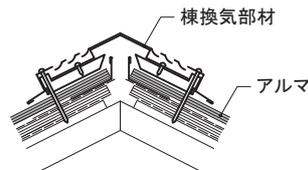
大棟部の施工(板金仕様・同質棟材仕様)

大棟部の施工(板金仕様)

- 最上段のアルマ本体は葺き足長さを短く調整するなどして葺き、釘頭があらわしにならないように施工します。
- 笠木とアルマの取り合い部にアルマ用シングルセメントを塗布します。

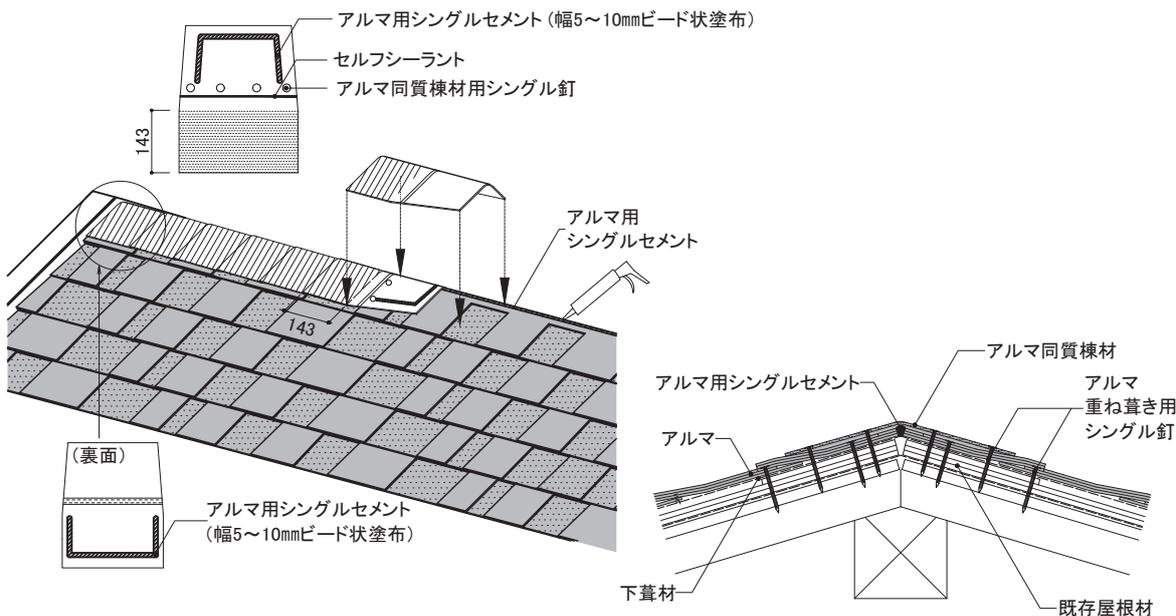


注意 アルマの施工では小屋裏換気を標準としております。棟換気を採用する際は、必要に応じた換気棟セットを取り付けてください。なお、換気棟セットにつきましては、株式会社ヨネキンのシングル用棟換気部材を推奨いたします。



大棟部の施工(同質棟材仕様)

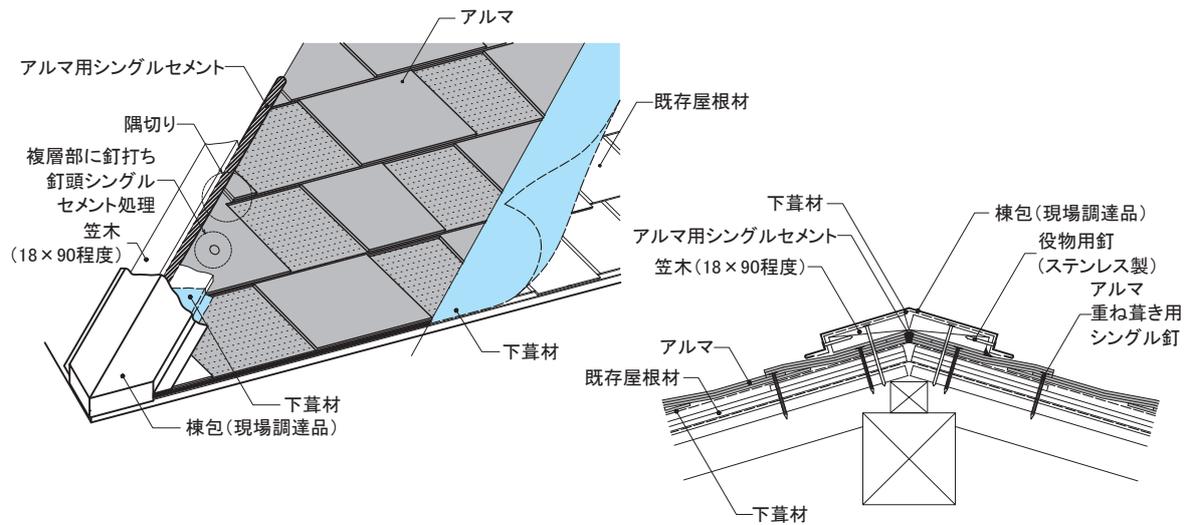
- 同質棟材1枚につき、アルマ同質棟材用シングル釘(φ3mm×43mm)4本で施工します。
- 棟芯に沿って折り曲げる際、同質棟本体の割れを防ぐため、日なたなどで温めてから施工します。
- 同質棟材施工の前に、棟芯にシングルセメントを塗布します。
- 同質棟材の重なり部分には下図のようにシングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布します。
- 1段目の同質棟材は裏面にシングルセメントを幅5～10mm幅のビード状に塗布します。



隅棟部の施工(板金仕様・同質棟材仕様)

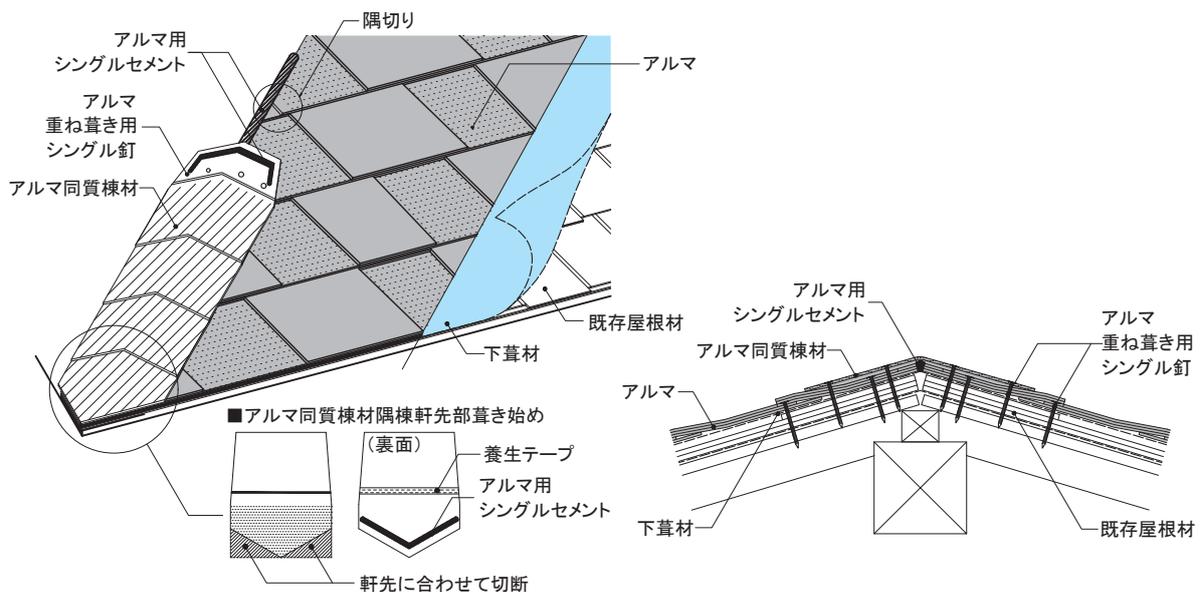
隅棟部の施工(板金仕様)

- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体複層部分の棟包で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。



隅棟部の施工(同質棟材仕様)

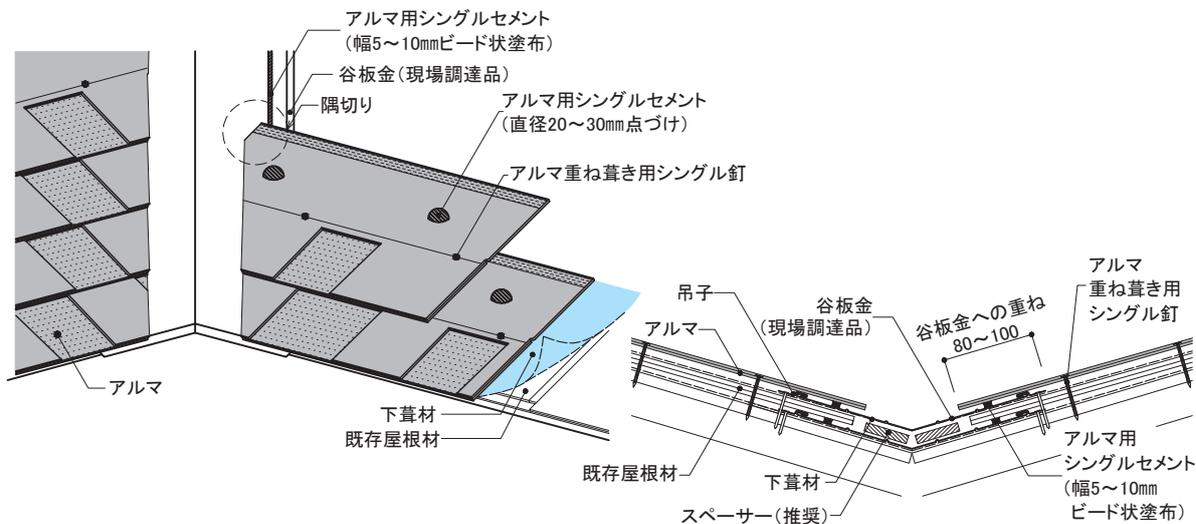
- 隅棟芯に沿ってシングルセメントを塗布します。
- 隅棟端部のアルマ本体は50mm程度隅切りします。
- 隅棟芯際は釘打ちライン上に釘を打てないため、本体の複層部分で同質棟材で隠れる場所に釘打ちし、釘頭をアルマ用シングルセメントで処理します。
- 軒先スタート部は軒先角度に合わせて切断して裏面にアルマ用シングルセメントを幅5～10mmのビード状に塗布し、葺き始めます。



谷部の施工(板金仕様)・壁際部の施工

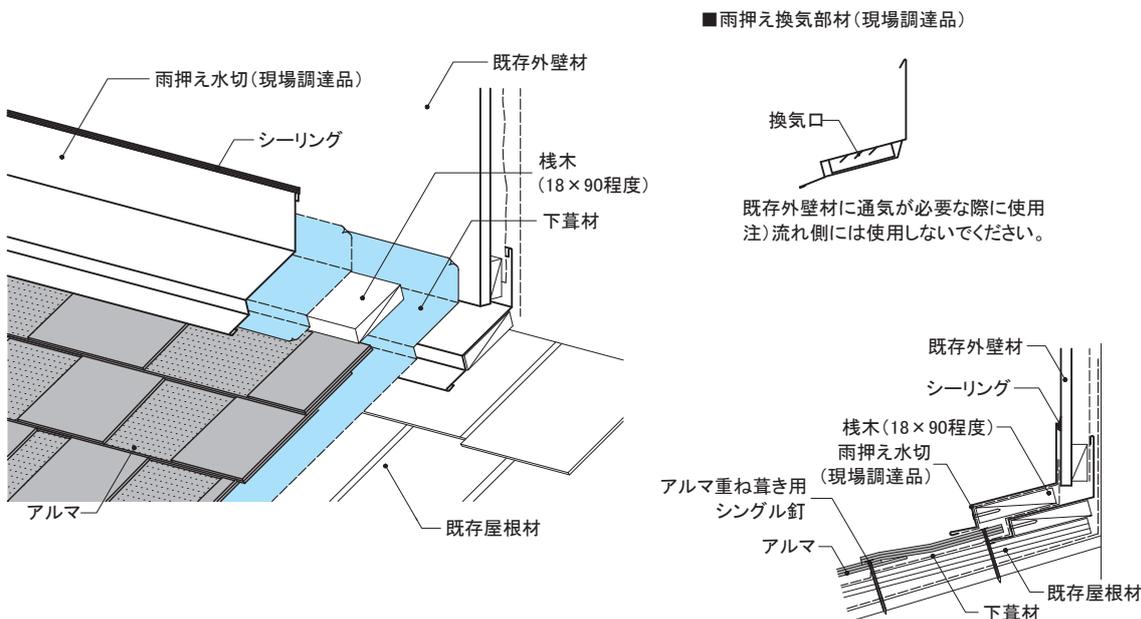
谷部の施工(板金仕様)

- 谷板金は直接釘で留め付けず、必ず吊子で取り付けます。
- アルマを谷板金に80~100mm重ねて施工します。
- 谷部にかかるアルマの上部角は50mm程度隅切りします。
- アルマ本体留め付けの際、釘が谷板金を貫通しないように留意してください。
- 谷板金にアルマ用シングルセメントを幅5~10mmのビード状に塗布し、アルマ本体と接着します。
- 既存谷板金との段差解消のため、必要に応じて10~15mm厚のスペーサーを挿入します。



壁際部の施工

- 既存雨押え水切の上に栈木を設置し、アルマを施工後、新規に雨押え水切を設置します。
- 栈木を覆うように下葦材を増し張りします。
- 雨押え水切上部にはシーリングを充填し、止水処理を行います。
- 既存外壁材に通気が必要な場合、既存雨押え水切にアルマを差し込んだり、雨押え換気部材を使用するなど、既存外壁材の通気を阻害しない措置を講じてください。



推奨部材 (板金部材)

<p>軒先唐草R 品番 YS-110 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>	<p>軒先唐草T 品番 YS-115 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>	<p>軒先水切35×55 (120°) 品番 Y-104 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>	<p>軒先水切35×65 (120°) 品番 Y-105 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>
<p>ケラバ水切60 品番 Y-202 入数 10本/cs 全長 1820mm</p>	<p>雨押水切70 品番 Y-401 入数 10本/cs 全長 1820mm</p> <p>ハゼ付 Y-401H</p>	<p>雨押水切120 品番 Y-403 入数 10本/cs 全長 1820mm</p> <p>ハゼ付 Y-403H</p>	<p>のし水切 品番 YS-445 入数 10本/cs 全長 1820mm</p>
<p>捨板水切18 品番 Y-502 入数 10本/cs 全長 1820mm</p>	<p>谷板水切(小) 品番 Y-503 入数 10本/cs 全長 1820mm</p> <p>1/7 35/65 ハゼ付 Y-535H (関東工場生産)</p>	<p>L型捨板 品番 Y-573 入数 20本/cs 全長 1820mm</p>	<p>棟包24 品番 Y-301 入数 10本/cs 全長 1808mm</p> <p>ハゼ付</p>
<p>棟巴24 品番 Y-601 入数 20本/cs 全長 510mm</p>	<p>隅巴24 品番 Y-610 入数 15本/cs 全長 600mm</p>	<p>片流れ棟80 品番 Y-330 入数 10本/cs 全長 1820mm</p>	<p>壁止まり右(左) 品番 Y-420 (421) 入数 20本/cs</p>

棟換気部材

換気棟
捨水切
屋根材
野地板
対応角度
【施工例】

■棟換気部材製品仕様

品番	VTS-200	VTS-100	VTS-050
材質	ス-ハ-GL鋼板 t=0.35		
寸法 (L)	1,980mm	1,090mm	645mm
通気開口面積	338.4cm ² /本	169.2cm ² /本	84.6cm ² /本
基準小屋裏面積	54.1m ² /本	27.1m ² /本	13.5m ² /本

VTS-200: 1980mm total length, 120mm end flange, 455mm spacing between caps.

VTS-100: 1090mm total length, 120mm end flange, 405mm spacing between caps.

VTS-050: 645mm total length, 120mm end flange, 405mm spacing between caps.

※棟部を棟包板金で納める場合にのみご使用になれます。
※棟包との連結にはY-301をご使用ください。

(推奨メーカー)

株式会社ヨネキン <https://www.yonekin.co.jp>

営業部 大阪府和泉市テクノステージ1-5-7

TEL 0725-51-3030 FAX 0725-51-3040

東京支店 東京都中央区日本橋本石町4-5-12

TEL 03-3517-3131 FAX 03-3517-3132

アスファルトシングル屋根材 アルマの保証について



■保証対象品:アルマ(新築物件に限る)

保証内容	次の不具合現象のないこと	保証期間
	屋根材本体の割れ、剥離 ※割れ：下葺材まで達する貫通亀裂の状態(表層部の軽微な亀裂を除く) ※剥離：下地が露出した剥がれまたはめくり上がり	10年
	※施工起因による不具合は含まれません。また、保証内容に抵触するか否かは弊社が判断するものといたします。	

■保証期間

「施工完了日」から「保証期間」とします。なお、本保証内容によって補償が行われた場合でも保証期間の変更はありません。また、補償の実施によって弊社製品が使用された場合でも、これにより新たな保証を実施するものではありません。

■保証条件

- 以下の条件をすべて満足することとします。
- 1) 弊社が定める設計施工資料集(施工時の最新版)に従い、アルマ専用の釘とシングルセメントを使用し、標準施工法で施工されている、日本国内の木造軸組、木造枠組及び鉄骨造(木下地に限る)の新築物件。
 - 2) 不具合が発見されたとき、お施主様より速やかに住宅会社様に、その不具合について通知されていること。
 - 3) 住宅会社様が、保証書発行申請書原本と弊社が発行した保証書を保管していること。
 - 4) 不具合発見後、直ちに当該不具合が回復されるまでの間、当該箇所以外に影響を及ぼさないように保護措置がなされていること。
 - 5) 保証対象品が補修されるまでの間、住宅会社様、施工関係業者様および弊社が当該不具合箇所への立ち入り、調査をお施主様より許諾いただけること。

■保証対象者

住宅会社様を対象とします。また保証対象者は、本保証書によって発生する権利義務の一部又は全部を、第三者に譲渡し、引き受けさせ、あるいは担保の用に供することは出来ません。

■補償方法

保証内容に記載する不具合が生じた場合は、住宅会社様が保管している本保証書及び工事記録をご提示頂いた上で、不具合が本製品に起因することを弊社が認めることを条件に、不具合が生じた部分を限度として、不具合の発生していない部分と同程度に修復させるものとし、次のいずれかの内、弊社が最も適切と判断した方法をもって対応します。

- 1) 不具合部分の保証対象品自体の補修
- 2) 不具合部分を対象とした代替製品の無償提供
- 3) 不具合部分を対象とした下記に査定する販売価格に相当する金額の返金 ※
・施工後2年以内に発覚した不具合の場合、販売当時の販売価格を上限として弊社が査定する金額
・施工後3年以降保証期間満了までの間は、経過年数ごとに減額された製品査定額を上限として弊社が査定する金額
※防水紙、留付金具等付属部材、胴縁下地その他の部材、シーリング、仮設足場ならびに施工手間に相当する価格は除く。
- 4) その他、協議の上最も適切と判断した方法

■免責事項

- 下記の事項に該当する場合には、免責とさせていただきます。
1. 保証対象品以外に発生した不具合。
 2. 保証内容に記載の不具合現象以外又は不具合の程度に達しない現象。
 3. 保証内容に記載の不具合現象で、製品機能を損なわない表層の膨れ、砂落ち現象。
 4. 保証内容に記載の剥離現象で、セルフシーラントの粘着効果が発現しない状態で発生した場合。
 5. 保証期間経過後に申し出た場合、又は保証期間内に生じたものでも発見後1年以上申し出なかった場合。
 6. 故意・過失又は不具合を放置した場合、及び拡大損害。(屋根上の歩行や落下物による不具合を含む。)
 7. 建物・躯体・下地の構造・変形・変位などに起因する不具合。
 8. 地震、特殊な周辺環境、公害、事故、天変地異等に起因する不具合。
 9. 弊社の設計施工資料集・取り扱い説明書に記載された事項に反する又は遵守されない設計、取扱い、保管、搬送、施工、維持管理による不具合。
また、不適切な換気や屋根種に起因する不具合。
 10. 屋根材施工完了後の増築や補修あるいは設備機器・看板等の取付工事等による不具合。
 11. 内部結露、伝い水、もらい錆、カビ、藻類、細菌、地衣類、原核生物による不具合。
 12. 雪おろしに起因する不具合。
 13. 施工当時実用化された技術では予測することが不可能な現象による不具合。
 14. 保証書または工事記録の原本を紛失した場合、あるいは事実と異なる記載がある場合。
 15. 弊社の定める販売可能地域(施工当時)以外で使用された場合。
 16. その他弊社の責に帰さない事由による不具合。

■その他

- ・上記記載の住宅会社様のみが補償対象となります。
- ・保証の権利は移転できません。
- ・本保証書に定めのない事項または本保証の解釈については疑義が生じたときは、誠意をもって速やかに協議のうえ解決するものとします。

アルマ メンテナンススケジュール

点検部位	主な点検項目	点検時期	メンテナンス時期	メンテナンス方法
本体全体	・セルフシーラントの剥がれ ・アルマ本体の破れ ・過度な石落ち(基材アスファルトが露出するような状態)	5年ごと ^{*1}	10年～20年	部分差し替え 重ね葺き 塗り替え ^{*3}
経過年数	5年	10年	15年	20年
定期点検	●	●	●	●
臨時点検 ^{*1}	地震や暴風雨の後			
メンテナンス方法	部分補修 ^{*2}	重ね葺き 塗り替え ^{*3}		

※1地震や暴風雨の後には、点検時期に関係なく臨時点検を行ってください。

また、建物の形状や立地環境条件によりメンテナンス時期に相異が生じることがございます。屋根の状態を確認し、状況に応じてご判断願います。

なお、点検およびメンテナンスにつきましては、必ず専門業者様にご依頼ください。(点検費用およびメンテナンス費用はお施主様のご負担となります。)

※2補修箇所を剥がし、葺き替えてください。部分補修箇所はその他の部分と色差が生じる場合がございます。

※3塗り替え用の塗料につきましては、下記塗料メーカーを推奨しております。

エスケー化研株式会社 お問い合わせ電話番号 072-621-7733 (代)

なお、塗り替え後は、アルマ表面色が単色の仕上げになります。また、防藻性能は失われます。

注)重ね葺き後のメンテナンス計画につきましては、上記に記載する点検項目を同様に行ってください。

また、重ね葺き完了より10～20年経過した後のメンテナンス方法につきましては、屋根材の葺き替えを、または塗り替えをご検討願います。

アルマ取り扱い営業所一覧

アルマは施工地域が限られております。詳しくは最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

■北日本営業部	〒982-0842	仙台市太白区越路28番8号	TEL(022)395-6776	FAX(022)713-7015
盛岡営業所	〒020-0021	盛岡市中央通一丁目11番17号(第二大通ビル)	TEL(019)654-5981	FAX(019)622-2369
仙台営業所	〒982-0842	仙台市太白区越路28番8号	TEL(022)395-6776	FAX(022)722-8688
郡山営業所	〒963-8017	郡山市長者三丁目4番1号(武田ビル)	TEL(024)938-2611	FAX(024)938-2360
■北関東営業部	〒370-0841	高崎市栄町4番11号(原地所第2ビル)	TEL(027)327-6669	FAX(027)327-6607
高崎営業所	〒370-0841	高崎市栄町4番11号(原地所第2ビル)	TEL(027)327-6669	FAX(027)327-6607
宇都宮営業所	〒321-0953	宇都宮市東宿郷三丁目1番12号(吉田エレクトロニクスオフィスビル)	TEL(028)633-5222	FAX(028)633-1785
水戸営業所	〒310-0805	水戸市中央二丁目6番29号(AIG水戸ビル)	TEL(029)231-3145	FAX(029)231-0180
長野営業所	〒380-0823	長野市南千歳二丁目12番地1(長野セントラルビル)	TEL(026)225-6171	FAX(026)225-6174
■首都圏営業部	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3913	FAX(03)5205-3922
大宮営業所	〒331-0812	さいたま市北区宮原町三丁目306番地1(第二坂本ビル)	TEL(048)652-2601	FAX(048)665-4388
※東京営業所	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3913	FAX(03)5205-3922
※東京特販課	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3915	FAX(03)5205-3919
特販第二部営業第一課	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3914	FAX(03)5205-3918
マーケティング戦略部新市場推進第一課	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3916	FAX(03)5205-3918
マーケティング戦略部設計推進課	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町一丁目6番5号(ツカモトビル)	TEL(03)5205-3916	FAX(03)5205-3918
西東京営業所	〒190-0023	東京都立川市柴崎町三丁目5番15号(OSビル)	TEL(042)525-7711	FAX(042)522-9077
千葉営業所	〒260-0021	千葉市中央区新宿二丁目5番19号(秋葉学園別館)	TEL(043)301-8533	FAX(043)301-8566
神奈川営業所	〒222-0033	横浜市港北区新横浜三丁目17番地2(友泉新横浜ビル)	TEL(045)475-1470	FAX(045)475-1475
相模原オフィス	〒252-0231	相模原市中央区相模原四丁目3番14号(相模原第一生命ビルディング)	TEL(042)730-5558	FAX(042)730-5559
■中部営業部	〒457-0823	名古屋市南区元塩町五丁目15番地の1	TEL(052)619-0591	FAX(052)619-0597
※名古屋営業所	〒457-0823	名古屋市南区元塩町五丁目15番地の1	TEL(052)619-0590	FAX(052)619-0597
※名古屋特販課	〒457-0823	名古屋市南区元塩町五丁目15番地の1	TEL(052)619-0595	FAX(052)619-0700
静岡営業所	〒422-8061	静岡市駿河区森下町1番35号(静岡MYタワー)	TEL(054)283-3505	FAX(054)283-1990
岐阜営業所	〒500-8847	岐阜市金宝町一丁目15番地(ダイイチ岐阜金宝町ビル)	TEL(058)264-1797	FAX(058)264-2952
■関西営業部	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-2391	FAX(06)6532-4827
※大阪営業所	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-2391	FAX(06)6532-4827
※大阪特販課	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-3177	FAX(06)6532-6670
特販第二部営業第二課	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-3477	FAX(06)6532-4827
マーケティング戦略部新市場推進第二課	〒550-0015	大阪市西区南堀江一丁目4番19号(なんばスミソウビル)	TEL(06)6532-3008	FAX(06)6532-4827
京都営業所	〒612-8419	京都市伏見区竹田北三ツ杭町11番地	TEL(075)634-3535	FAX(075)646-1880
姫路営業所	〒670-0964	姫路市豊沢町135番地(姫路大同生命ビル)	TEL(079)288-2891	FAX(079)288-2892
岡山営業所	〒700-0903	岡山市北区幸町8番29号(三井生命岡山ビル)	TEL(086)232-1751	FAX(086)232-1757
広島営業所	〒732-0828	広島市南区京橋町1番23号(三井生命広島駅前ビル)	TEL(082)568-7128	FAX(082)568-7129
松山営業所	〒790-0003	松山市三番町七丁目13番地13(ミツネビル)	TEL(089)935-8411	FAX(089)935-8501
高松オフィス	〒761-8075	高松市多肥下町1507番地14	TEL(087)813-7733	FAX(087)868-3066
■九州営業部	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前四丁目2番1号(NEWNO・ザイマックス博多駅前)	TEL(092)472-1121	FAX(092)472-1126
福岡営業所	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前四丁目2番1号(NEWNO・ザイマックス博多駅前)	TEL(092)472-1121	FAX(092)472-1126
長崎オフィス	〒850-0028	長崎市勝山町37番地(長崎勝山37ビル)	TEL(095)820-3411	FAX(095)820-3622
北九州営業所	〒802-0081	北九州市小倉北区紺屋町9-1(明治安田生命小倉ビル)	TEL(093)521-1561	FAX(093)513-2811
熊本営業所	〒862-0976	熊本市中央区九品寺二丁目1番24号(ベストアメニティ熊本九品寺ビル)	TEL(096)371-2911	FAX(096)371-3210
鹿児島営業所	〒890-0062	鹿児島市与次郎二丁目4番35号(KSC鶴池ビル)	TEL(099)813-4117	FAX(099)813-4128
宮崎オフィス	〒880-0806	宮崎市広島二丁目5番16号(興亜宮崎ビル)	TEL(0985)35-7773	FAX(0985)28-2866
※■本社	〒460-8610	名古屋市中区錦二丁目18番19号(三井住友銀行名古屋ビル)	TEL(052)220-5114	FAX(052)220-3412

※ISO9001:2015 (業系建材の製造)認証部署

お客さま相談室のご案内

商品のお問い合わせ、ご相談は最寄りの弊社営業所または下記お客さま相談室にお問い合わせください

お客さま相談室	受付時間 月～金 AM9:00～PM5:00 (土・日曜日・祝日・5月GW・夏期休暇・年末年始を除く。)	TEL(052)220-5125	FAX(052)220-5157
---------	--	------------------	------------------

●カタログ、サンプルのご依頼は最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

<https://www.nichiha.co.jp>

■価格についてのご注意

- ・本カタログに表示された標準価格と仕様は2025年4月現在のものです。
- ・本カタログに表示された標準価格はメーカー希望小売価格です。消費税・工事費・運賃・廃材処理費などは含まれておりません。

■お願い

- ・印刷物のため実物の色柄と異なる場合がございます。
- ・本カタログ掲載商品につきましては改良のため仕様の一部を予告なく変更させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ・施工は専門施工が必要ですので、建設会社様・工務店様または販売店様・専門施工店様にご相談ください。